

埼玉大学研究機構
レジリエント社会研究センター自己点検報告書
令和5年3月

埼玉大学研究機構
レジリエント社会研究センター

埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター自己点検報告書 2021-2022 の作成にあたって

埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センターは、2014年に地圏科学研究センターの廃止に伴って新たに設置された研究センターである。センターのミッションは以下のようである。

1. 防災、環境、社会基盤を対象として真のレジリエント社会構築のための研究・教育・国際貢献を実施する。
2. 建設工学科（現、環境社会デザイン学科）を中心として設立するが、課題解決のために埼玉大学のポテンシャルを最大限に活用して、地域および国際社会に貢献することを目的とする。

センターは、2019年3月までが第一期、2019年4月から第二期、2020年度4月から第三期として活動中である。以下に示す3つの部門で研究活動を行っている。

- ・インフラ強靱化部門
- ・防災・環境部門
- ・文理融合（ソフト的対応）部門

また、6研究機関（4つの研究機関と包括連携協定締結）と連携して共同研究などを実施している。

本自己点検報告書は第三期の2021-2022年度の約2年間の活動成果をまとめたものである。

本報告書は、1. 構成員、2. 研究活動（獲得外部資金、研究業績、社会的貢献、受賞歴、教育実績）、3. 対外活動報告（市民フォーラム、国際的活動）から構成されている。

2023年3月

レジリエント社会研究センター長 奥井 義昭

目次

	ページ
1. 構成員	1
2. 研究活動報告	2
2-1 外部資金	
2-1-1 科学研究費	4
2-1-2 受託研究	6
2-1-3 共同研究	7
2-1-4 寄附金	9
2-1-5 その他（受託事業）	11
2-1-6 その他（補助金）	12
2-2 研究業績	
2-2-1 論文	13
2-2-2 著書、資料、解説、講義、講演等	25
2-2-3 学術講演（国際会議）	30
2-3 社会的貢献	36
2-4 受賞歴	44
2-5 学生指導実績	45
3. 対外活動報告	
3-1 市民のためのフォーラム	49
3-2 その他の対外活動	
3-2-1 埼玉県橋梁メンテナンス研究会	56
3-2-2 その他	71
3-3 国際的活動	73
3-4 主な連携研究機関	74

1. 構成員 (2021~2022)

<センター長>

奥井 義昭

● インフラ強靱化部門

松本 泰尚 教授 (2021年度のみ)
牧 剛史 教授
浅本 晋吾 准教授
党 紀 准教授
睦好 宏史 客員教授

● 防災・環境部門

田中 規夫 教授
長田 昌彦 教授
小室 孝 教授
内村 太郎 教授
藤野 毅 教授 (2021年度のみ)
谷山 尚 准教授
堤田 成政 准教授 (2022年度より)
岩波 越 客員教授 国立研究開発法人防災科学技術研究所
国家レジリエンス研究推進センター長
中川 勝広 特任准教授 国立研究開発法人情報通信研究機構
電磁波研究所リモートセンシング研究室長

● 文理融合部門

久保田 尚 教授
飯島 總 教授 (2021年度のみ) 国際本部国際開発教育研究センター
小中 鉄雄 教授 (2022年度より) 研究機構研究推進室
深堀 清隆 准教授
内田奈芳美 教授 アーバンデザインセンター大宮副センター長
加藤 哲平 助教 (2021年度のみ)
小嶋 文 准教授 (2022年度より)
岩崎 康夫 客員教授 一般財団法人さいたま住宅検査センター 理事長

2. 研究活動報告

埼玉大学レジリエント社会研究センターの研究活動は、次のようである。

但し、外部資金については、埼玉大学内のIRデータを元とし、大学向けに入金されたもの以外は含まれないものとする。また、分担についても含まれない。

外部資金

【部門別】

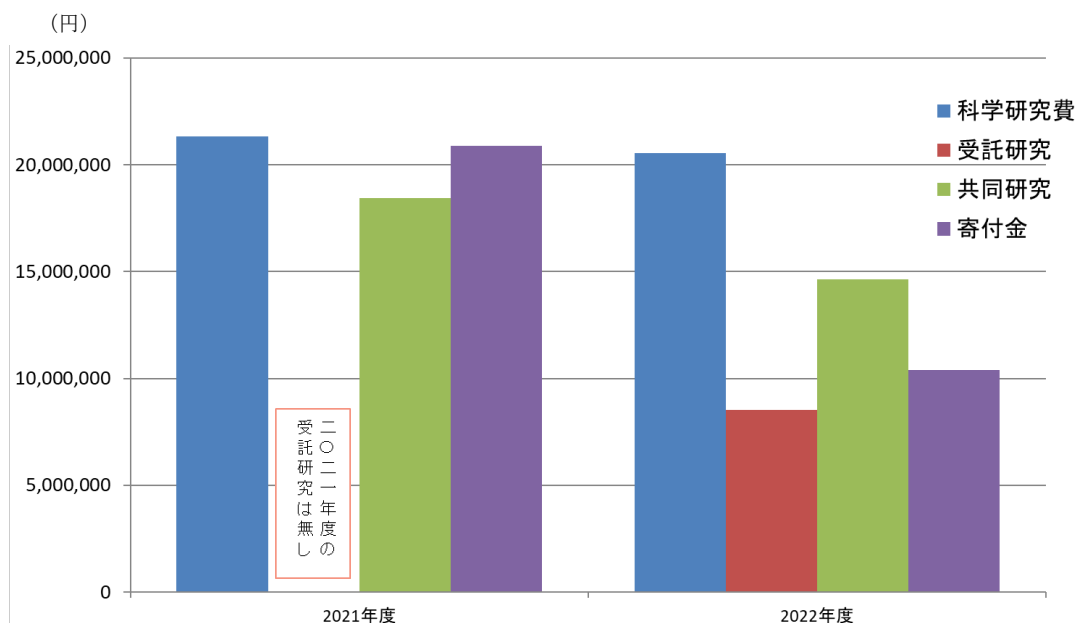
単位：円

		インフラ強化部門	防災・環境部門	文理融合部門	合計
科学研究費	(件数)	5	8	3	16
	(金額)	22,600,000	16,660,000	2,600,000	41,860,000
受託研究	(件数)	1	1	1	3
	(金額)	4,939,000	3,250,000	330,000	8,519,000
共同研究	(件数)	8	5	4	17
	(金額)	17,510,000	7,513,090	8,056,280	33,079,370
寄付金	(件数)	18	9	4	31
	(金額)	23,065,000	7,571,000	642,680	31,278,680
その他(受託事業)	(件数)	3	2	2	7
	(金額)	2,841,180	1,461,116	3,888,909	8,191,205
その他(補助金)	(件数)	1	0	0	1
	(金額)	3,000,000	0	0	3,000,000
総 額					125,928,255

【年度別】 ※その他(受託事業)、その他(補助金)は含まれない。

単位：円

	2021年度	2022年度
科学研究費	21,320,000	20,540,000
受託研究	0	8,519,000
共同研究	18,440,000	14,639,370
寄付金	20,878,680	10,400,000
総 額	60,638,680	54,098,370



	インフラ強靱化部門	防災・環境部門	文理融合部門	合計	
研究業績					
論文	(A)論文	32	67	25	124
	(A)論文以外	11	12	9	32
著書, 資料, 解説, 講義, 講演 等		17	22	36	75
学術講演 (国際会議・主なもの)		35	32	9	76
社会的貢献(外部委員会の役職等)		82	73	118	273
受賞歴		6	1	0	7
学生指導実績		22	26	14	62

2-1 外部資金

2-1-1 科学研究費

採択部局	研究代表者名	採択年度 (西暦)	補助金の種別 (研究種目等)	補助金の研究課題名
インフラ強靱化部門				
理工学研究科	奥井義昭	2021	基盤研究(B)一般	Load Ratingによる既設橋の維持管理手法の開発
		2022	基盤研究(B)一般	Load Ratingによる既設橋の維持管理手法の開発
理工学研究科	牧 剛史	2022	基盤研究(B)一般	プレキャスト部材と既設部材の接合部の耐荷機構の解明と汎用的設計法の構築
理工学研究科	浅本晋吾	2021	基盤研究(B)一般	材料及び環境条件に基づくDEF膨張の発生・抑制機構の解明と構造性能への影響評価
		2022	基盤研究(B)一般	材料及び環境条件に基づくDEF膨張の発生・抑制機構の解明と構造性能への影響評価
防災・環境部門				
理工学研究科	田中規夫	2021	基盤研究(C)一般	植生の鉛直構造や洪水時の破壊・浮遊物捕捉によるリスク変化を考慮した戦略的植生管理
		2022	基盤研究(C)一般	植生の鉛直構造や洪水時の破壊・浮遊物捕捉によるリスク変化を考慮した戦略的植生管理
理工学研究科	長田昌彦	2021	基盤研究(B)一般	大気圧変動を外力とした原位置岩盤の浸透特性評価手法の開発
		2022	基盤研究(B)一般	大気圧変動を外力とした原位置岩盤の浸透特性評価手法の開発
理工学研究科	小室 孝	2022	基盤研究(C)一般	質感再現のための任意視点画像生成ネットワーク
理工学研究科	内村太郎	2021	基盤研究(B)一般	斜面表層崩壊の前兆変位の検出と崩壊予測、早期警報
		2022	基盤研究(B)一般	斜面表層崩壊の前兆変位の検出と崩壊予測、早期警報
理工学研究科	堤田成政	2022	若手研究	ユーザーの目的に応じた土地被覆分類作成システムの基盤構築
文理融合部門				
人文社会科学 研究科	内田奈芳美	2021	基盤研究(C)一般	都市空間における「ゆらぎ」を内包した複層的オーセンティシティの解釈手法の開発
		2022	基盤研究(C)一般	都市空間における「ゆらぎ」を内包した複層的オーセンティシティの解釈手法の開発

採択部局	研究代表者名	採択年度 (西暦)	補助金の種別 (研究種目等)	補助金の研究課題名
理工学研究科	加藤哲平	2021	若手研究	マッチングの不確実性を考慮した乗り合い式ライドシェアリングサービスの便益評価手法

2-1-2 受託研究

受入部局	研究代表者名	受入年度 (西暦)	委託元名称	研究課題名	事業名
インフラ強靱化部門					
理工学 研究科	党 紀	2022	国土交通省関東地方 整備局	R4人間とAI協働型画像 損傷セグメンテーションの 開発	令和4年度『技術（シー ズ）マッチング』
防災・環境部門					
理工学 研究科	堤田成政	2022	国立研究開発法人科 学技術振興機構	マルチスケール・マルチア ングルリモートセンシング データの統合基盤の創成	戦略的創造研究推進事業 ACT-X（個人型研 究）
文理融合部門					
理工学 研究科	久保田尚 小嶋 文	2022	あさかエリアデザイ ン会議	朝霞駅南口道路の ウォークアブル化に関す る研究	

2-1-3 共同研究

受入部局	研究代表者	受入年度 (西暦)	相手方機関(共同研究先)名	事業名(研究題目)
インフラ強靱化部門				
理工学研究科	奥井義昭	2021	東日本高速道路株式会社関東支社	鋼トラス橋のLoad Ratingとリダンダンシーの検討
		2022	東日本高速道路株式会社関東支社	鋼トラス橋のLoad Ratingとリダンダンシーの検討
		2022	NEXCO西日本コンサルタンツ株式会社	Load ratingを用いた既設高速道路橋の維持管理に関する研究
理工学研究科	松本泰尚	2021	飛鳥建設株式会社	振動制御装置の実用化に向けた形状および配置方法に関する研究
		2022	飛鳥建設株式会社	振動制御装置の低減効果に関する数値解析および実験的検討
理工学研究科	牧 剛史	2021	株式会社キタムラ	軽量鉄骨造向け新型耐力壁の研究
		2022	東日本高速道路株式会社関東支社	SFR C補強された鋼床版の健全性評価に関する研究
理工学研究科	党 紀	2021	株式会社スマートシティ技術研究所	ドローンを活用した社会インフラ点検技術開発
防災・環境部門				
理工学研究科	田中規夫	2021	株式会社NIPPO	堤防の越水に対して決壊しにくい補強技術に関する研究
		2022	日本電気株式会社	R4分布型音響センシング技術を活用した河川堤防の変状検知に関する技術研究開発

受入部局	研究代表者	受入年度 (西暦)	相手方機関(共同研究先)名	事業名(研究題目)
理工学研究科	小室 孝	2021	D I C株式会社	触感サンプルへの映像重畳によるクロスモーダル質感評価ツールの開発
		2021	D I C株式会社	触感サンプルへの映像重畳によるクロスモーダル質感評価ツールの開発
理工学研究科	藤野 毅	2021	株式会社STL	金属イオンを活用した「抗菌物」の実用化研究
文理融合部門				
理工学研究科	久保田尚	2021	あいおいニッセイ同和損害 保険株式会社	テレマティクスデータを用いた交通静 穏化対策システムに関する研究 1
		2022	株式会社中央建設コンサル タント	イリオモテヤマネコ交通事故防止対策 に関する研究
		2022	日本ライナー株式会社	ロードデザインシートが歩行者・自動 車に及ぼす影響に関する研究
理工学研究科	小嶋 文	2021	あいおいニッセイ同和損害 保険株式会社	テレマティクスデータを用いた交通静 穏化対策システムに関する研究 2

2-1-4 寄附金

受入部局	研究等担当者名	受入年度 (西暦)	寄附者名
インフラ強靱化部門			
理工学研究科	奥井義昭	2021	一般社団法人日本鉄鋼連盟
		2021	ゴム支承協会
		2022	株式会社横河NSエンジニアリング
		2022	一般社団法人日本鉄鋼連盟
理工学研究科	牧 剛史	2021	株式会社HRC研究所
		2021	株式会社コムスエンジニアリング
		2021	株式会社コムスエンジニアリング
		2022	株式会社コムスエンジニアリング
理工学研究科	浅本晋吾	2021	一般社団法人セメント協会
		2021	宇部興産株式会社
		2021	旭化成ホームズ株式会社
		2022	UBE三菱セメント株式会社
		2022	大成建設株式会社
理工学研究科	党 紀	2021	株式会社川金コアテック
		2021	公益社団法人土木学会
		2021	一般社団法人日本鉄鋼連盟

受入部局	研究等担当者名	受入年度 (西暦)	寄附者名
理工学研究科	党 紀	2022	株式会社川金コアテック
		2022	株式会社スマートシティ技術研究所
防災・環境部門			
理工学研究科	田中規夫	2021	株式会社建設環境研究所
		2022	公益財団法人河川財団
		2022	株式会社建設環境研究所
理工学研究科	長田昌彦	2021	奥多摩工業株式会社
理工学研究科	小室 孝	2021	華為技術日本株式会社
理工学研究科	藤野 毅	2021	藤野 毅
		2021	Lim Yi Heng
理工学研究科	谷山 尚	2021	株式会社ニュージェック
		2022	株式会社ニュージェック
文理融合部門			
理工学研究科	久保田尚	2021	日本ライナー株式会社
		2021	全国SJC会
		2021	朝霞市長 富岡勝則
		2021	株式会社アークノハラ

2-1-5 その他（受託事業）

研究代表者名	受入年度 (西暦)	委託元名称	事業名
インフラ強靱化部門			
党 紀	2021	独立行政法人日本学術振興会	二国間交流事業共同研究・セミナー
	2021	国立研究開発法人科学技術振興機構	国際青少年サイエンス交流事業
	2022	独立行政法人日本学術振興会	二国間交流事業共同研究・セミナー
防災・環境部門			
内村太郎	2021	独立行政法人国際協力機構	2021年度「アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」に係る埼玉大学大学院理工学研究科特別プログラム
	2022	独立行政法人国際協力機構	2022年度「アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」に係る埼玉大学大学院理工学研究科特別プログラム
文理融合部門			
久保田尚	2021	一般財団法人日本国際協力センター	人材育成奨学計画（JDS）特別プログラム（ミャンマー、ベトナム）
	2022	独立行政法人国際協力機構	2022年度「アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」に係る埼玉大学大学院理工学研究科特別プログラム

2-1-6 その他（補助金）

採択部局	研究代表者	採択年度 (西暦)	交付元名称	補助金の種類	補助金の研究課題名
インフラ強靱化部門					
理工学研究科	党 紀	2022	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	官民による若手研究者発掘支援事業費助成金	橋梁点検の自動化のためのUAV撮影と3D損傷認識手法の開発

2-2 研究業績

2-2-1 論文

インフラ強靱化部門

奥井 義昭

(A)論文

笠松 徹, 奥井 義昭, 石橋 正博, 山川 創: Load Rating を用いた既設橋梁の耐荷性能評価に関する一検討, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.77, No. 3, pp. 418-426, 2021.

奥井 義昭, 傳田 諒, 熊木 和輝, 佐久間 智: 鋼橋のシステムリダンダンシーの評価方法と Load rating におけるシステム係数の提案, 構造工学論文集 A, Vol.68A, pp.1-10, 2022.

笠松徹, 奥井義昭, 木村正志, 狩野亮太, 佐久間智, 時田英夫: 既設橋評価のための実態交通荷重を考慮した活荷重係数に関する研究, 構造工学論文集, Vol.69A, pp.58-68, 2023.

松本 泰尚 (2021年度のみ)

(A)論文

T. Morihara, S. Yokoshima, Y. Matsumoto: Effects of noise and vibration due to the Hokuriku Shinkansen railway on the living environment, International Journal of Environmental Research and Public Health, 18, 7794, 1-13, <https://doi.org/10.3390/ijerph18157794>, 2021.

牧 剛史

(A)論文

牧 剛史, 土屋智史, 斉藤成彦, 渡邊忠朋: コンクリートの損傷指標を用いた RC 部材の三次元耐荷機構の数値解析的評価, 土木学会論文集 E2 (材料・コンクリート構造), Vol.78, No.1, pp.121-137, 2022.

土屋智史, 渡邊忠朋, 斉藤成彦, 牧 剛史, 石田哲也: マルチスケール解析を用いた PC 桁に生じる軸方向ひび割れの再現と耐荷性状の評価, 土木学会論文集 E2 (材料・コンクリート構造), Vol.78, No.1, pp.13-29, 2022.

Thai H.N., Kato A., Nguyen H.G., Nguyen T.D., Tong T.K., Nguyen V.T., Uchimura T., Maki T., Kawamoto K.: Effects of fines content and maximum particle size on mechanical properties and saturated hydraulic conductivity of recycled concrete aggregates for unbound roadbed materials in Vietnam, Japanese Geotechnical Society Special Publication, Vol.9, No.6, pp.239-244, 2021.

(B)論文

吉田祐太, 牧 剛史: 定着部が劣化した PC 梁の曲げ載荷実験と再現解析, コンクリート工学年次論文集, Vol.44, No.2, 2022.

浅本 晋吾

(A)論文

Y. Okazaki, S. Okazaki, S. Asamoto, and T. Yamaji: Estimator for generalization performance of machine learning model trained by biased data collected from multiple references, Computer-Aided Civil and Infrastructure Engineering, accepted

Y. Luan and S. Asamoto: Experimental study on mortar with the addition of hydrophobic silicone oil for water absorption, strength, and shrinkage, Construction and Building Materials, Volume 367, 130323, 2023
<https://doi.org/10.1016/j.conbuildmat.2023.130323>

- A. Jędrzejewska, M. Zych, F. Kanavaris, F. Chen, S. Ito, J. M. Torrenti, D., S. Asamoto, M. Azenha: Standardized models for cracking due to restraint of imposed strains—The state of the art, *Structural Concrete*, pp.1-18, 2023
<https://doi.org/10.1002/suco.202200301>
- 浅本晋吾, 志連凌太, 松井久仁雄, 高橋恵輔: 拡散方程式に基づいたセメント硬化体への水分浸透特性の検討, *セメント・コンクリート論文集*, No.76, 掲載決定, 2022
- J. Luo, S. Asamoto and K. Nagai: Mesoscale simulation of compression-induced cracking and failure of ASR-damaged concrete with stirrup confinement, *Engineering Fracture Mechanics*, Volume 277, 2023, 108977
<https://doi.org/10.1016/j.engfracmech.2022.108977>
- J. Luo, S. Asamoto and K. Nagai: An analytical investigation of bond deterioration between rebar and ASR/DEF-damaged concrete with and without stirrup confinement using 3D RBSM, *Construction and Building Materials*, Volume 351, 128923, 2022
<https://doi.org/10.1016/j.conbuildmat.2022.128923>
- J. Luo, Y. Wang, S. Asamoto and K. Nagai: Mesoscopic simulation of crack propagation and bond behavior in ASR damaged concrete with internal/external restraint by 3D RBSM, *Cement and Concrete Composites*, Volume 129, Article 104488, 2022
<https://doi.org/10.1016/j.cemconcomp.2022.104488>
- N. R. Joshi, A. Matsumoto, S. Asamoto, T. Miura and Y. Kawabata: Investigation of the mechanical behaviour of concrete with severe delayed ettringite formation expansion focusing on internal damage propagation under various compressive loading patterns, *Cement and Concrete Composites*, 104433, 2022
<https://doi.org/10.1016/j.cemconcomp.2022.104433>
- K. Takahashi, K. Matsui, S. Asamoto and N. Sakamoto: Multiscale structural changes and drying shrinkage of Portland cement pastes: effects of a fatty-alcohol-based shrinkage reducing agent, *Materials and Structures* volume 55, Article number: 44, 2022
<https://doi.org/10.1617/s11527-022-01889-w>
- K. Takahashi, S. Asamoto, M. Babazono and Y. Matsuda: Microstructural properties and water penetration resistance of cementitious binder combined with water-dispersible polyurethane, *Cement and Concrete Composites*, Article 104326, 2021
<https://doi.org/10.1016/j.cemconcomp.2021.104326>
- N. R. Joshi, T. Sriprasong, S. Asamoto and P. Sanchaen: Time-Dependent Deformation of a Concrete Arch Dam in Thailand - Numerical Study on Effect of Alkali Silica Reaction on Deflection of Arch, *Journal of Advanced Concrete Technology*, Vol.19, pp.181-195, 2021
<https://doi.org/10.3151/jact.19.181>
- S. Asamoto, J. Sato, S. Okazaki, P.J. Chun, R. Sahamitmongkol, and G. H. Nguyen: The Cover Depth Effect on Corrosion-Induced Deterioration of Reinforced Concrete Focusing on Water Penetration: Field Survey and Laboratory Study, *Materials*, 14(13), 3478, 2021
<https://doi.org/10.3390/ma14133478>
- T. Mizobuchi and S. Asamoto: Present status and issues of control technology for cracking of mass concrete in Japan, *RILEM Technical Letters*, 6, pp. 25-35, 2021
<https://doi.org/10.21809/rilemtechlett.2021.137>
- 石毛 成, 浅本晋吾, 岡崎 百合子, 岡崎 慎一郎: コンクリートの乾燥収縮予測式の精度検証と機械学習による回帰分析, *AI・データサイエンス論文集*, 2 巻 J2, pp. 341-348, 2021
https://doi.org/10.11532/jsceiii.2.J2_341

(B)論文

松本歩, Nirmal Joshi, 浅本晋吾, 川端雄一郎: DEF 膨張が生じたコンクリートの圧縮応力下での内部損傷進行の検討, コンクリート工学年次論文集, Vo.43, No.1, pp.227-232, 2021.

T. Prasanthan, S. Asamoto, and S.M.A Nanayakkara: Drawbacks of current scale-down mock-up test methodology in mass concrete construction, The 9th International Conference of Asian Concrete Federation, 2021, Pathum Thani, Thailand

党 紀

(A)論文

Ahmed Silik, Mohammad Noori, Wael A Altabey, Ji Dang, Ramin Ghiasi, Zhishen Wu: Optimum Wavelet Selection for Nonparametric Analysis toward Structural Health Monitoring for Processing Big Data from Sensor Network: A Comparative Study, Structural Health Monitoring, published online, pp.1-23, 2021.

Luyao Wang, Ji Dang, Xin Wang, Ashish Shrestha: Waveform-Based Fracture Identification of Steel Beam Ends Using Convolutional Neural Networks, Structural Control and Health Monitoring, Vol.28, Iss.9, pp.1-23, 2021.

Tint Lwin, Takeshi Koike, Ji Dang: A Rationalized Seismic Design Method for Buildings in Earthquake-Prone Developing Countries, ASEAN Engineering Journal, Vol.11, No.4, pp.266-279, 2021.

Huihui Yuan, Ji Dang, Qingxiong Wu, Tetsuhiko Aoki: A modified curve-approximated hysteretic model for partially concrete-filled steel tube bridge piers, Journal of Constructional Steel Research, Vol.185, No.1, pp. (106861)1-19, 2021.

小池武, 渡邊拓, 濱野雅裕, 長谷川延広, 大沼博幹, 党紀, 中川信夫: 地上式配水池の耐震安全性能照査法提案, 土木学会論文集 A, Vol.77, No.4, pp.24-34 2021.

党紀, 山崎信宏, 秋池佑香, 石山昌幸, 染谷優太: 機能分散型直列ダンパーCaSS の動的挙動に関する実験的研究, 土木学会論文集 A, Vol.78, No.4, 2022.

党紀, 談雨晴, 五十嵐晃, 姫野岳彦, 濱田由記: 高減衰ゴムを用いる免震橋の低温環境における応答挙動に関する実験的研究, 土木学会論文集 A, Vol.78, No.4, 2022.

Yuqing Tan, Ji Dang, Akira Igarashi, Takehiko Himeno, Yuki Hamada: Hysteretic restoring force model of high damping rubber bearings including thermo-mechanical coupled effect, Engineering Structure, Vol. 277, pp.115449.1-12, 2022.

Mida Cui, Gang Wu, Ji Dang, ZhiQiang Chen, Minghua Zhou: Deep learning-based condition assessment for bridge elastomeric bearings, Journal of Civil Structural Health Monitoring, Vol.12, pp.245-261, 2022.

Fujian Tang, Guoshuai Zhou, Tong Li, Ji Dang, Hong-Nan Li: Fe-C Coated Single Mode-Multimode-Single Mode Optical Fiber Sensor for Steel Corrosion Monitoring, IEEE Sensors Journal, Iss.19, Vol.02, pp.18508 - 18516, 2022.

Tatsuro Yamane, Pang-jo Chun, Ji Dang, Riki Honda: Recording of bridge damage areas by 3D integration of multiple images and reduction of the variability in detected results, Computer-Aided Civil and Infrastructure Engineering, pp.1-17, 2023.

Fujian Tang, Jiangwei Qin, Els Verstryngge, Ji Dang, Hong-Nan Li: Characterization of single-mode multimode single-mode fiber optic sensors for steel rebar corrosion monitoring in NaCl and simulated concrete pore solutions, Measurement Science and Technology, Vol.34, No.4, pp.1-14, 2023.

(B)論文

Jiyuan Shi, Ji Dang, Mida Cui, Rongzhi Zuo, Kazuhiro Shimizu, Akira Tsunoda and Yasuhiro Suzuki: Improvement of Damage Segmentation Based on Pixel-Level Data Balance Using VGG-Unet, Applied Sciences, Vol.11, Iss.2, pp.518.1-17, 2021.

Kazuma Inoue, Takashi Kiyota, Masataka Shiga, Ji Dang, Xin Wang: Preliminary Report of the Damage by the 2021 Off Fukushima Prefecture Earthquake Mj7.3, Japan, JSCE Journal of Disaster FactSheets, FS2021-E-0001, No.1, pp.1-8, 2021.

党 紀, 水元 大雅, 刘 佳明, 藤嶋 斗南: YOLO を用いた多種類橋梁損傷の同時検出, AI・データサイエンス論文集, Vol.2, Iss.J2, pp.447-456, 2021.

Yuqing TAN, Ji DANG, Akira IGARASHI, Takehiko HIMENO, Yuki HAMADA, Yoshifumi UNO: Low temperature hybrid simulations for high damping rubber bearings, 第 11 回インフラ・ライフライン減災対策シンポジウム講演集, Vol.11, pp.202-206, 2021.

Zuo Rongzhi, 党紀, 鶴野禎史, 清水和弘, 鈴木康寛: IoT センシングによる橋梁支承の変位モニタリング手法の開発, 第 11 回インフラ・ライフライン減災対策シンポジウム, Vol. 11, pp.214-219, 2021.

Katrina MONTES, Ji DANG: Nonlinearity Recognition Using 2-Layer Neural Network for Design of New Type of Rubber Bearings, 第 11 回インフラ・ライフライン減災対策シンポジウム講演集, Vol.11, pp.197-201, 2021.

藤嶋 斗南, 党 紀, 全 邦釘: 橋梁損傷セグメンテーションの背景増強訓練とその効果の検証, AI・データサイエンス論文集, Vol.03, Iss.J2, pp.994-1002, 2022.

劉 佳明, 党 紀, 全 邦釘: DeepLabv3+を用いた橋梁腐食損傷とその精度の向上, AI・データサイエンス論文集, Vol.03, Iss.J2, pp.802-810, 2022.

防災・環境部門

田中 規夫

(A)論文

Igarashi, Y., Tanaka, N.: The Effects of Levee-Breach Timing at the Upstream of the Tokigawa River and the Junction Section of the Tokigawa and Opegawa Rivers on the Flood Volume from the Rivers. Journal of JSCE, 10(1), 213-227, 2022. (Originally published in Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering), 76(1), 284-294 in Japanese).

Abbas, F. M., Tanaka, N., Investigation of flow structure with moat acting as a water cushion at the toe of an overflowing levee. Environmental Fluid Mechanics, 1-25, 2022.

Amina, Tanaka, N.: Numerical investigation of 3D flow properties around finite emergent vegetation by using the two-phase volume of fluid (VOF) modeling technique. Fluids, 7(5), 175, 2022.

Rahman, M. A., Tanaka, N., Anjum, N.: Damming effects of tsunami-borne washed-out trees in reducing local scouring and tsunami energy behind a coastal embankment. Applied Ocean Research, 126, 103260, 2022.

Sherzai, J. H., De Costa, R., Tanaka, N.: Effects of Roughness of an Embankment Slope or Application of a Geo-Grid or Moat on Scouring Phenomena Downstream of an Embankment. Arabian Journal for Science and Engineering, 1-16, 2022.

Tanaka, N., Igarashi, Y.: Changes in the historical river course and related flood risk in the Arakawa River basin in Japan and the role of still-existing secondary embankments in the recent 2019 flooding event, In: Woo, H., Tanala, H., De Costa, G., Lu J., Water Projects and Technologies in Asia (in Press), IAHR-Monograph, 2023.

Amina, Tanaka, N.: Experimental Study to Evaluate the Effectiveness of the Variation in Crown Portion of a Tree on the Flow Properties Considering the Finite Length Forest. International Journal of Civil Engineering, 20(12), 1461-1478, 2022.

Amina, Tanaka, N., Variation of tree crown height effects on flow behavior around finite vegetation. Journal of Applied Water

Engineering and Research, 1-13, 2022.

Abbas, F. M., Tanaka, N.: Utilization of geogrid and water cushion to reduce the impact of nappe flow and scouring on the downstream side of a levee. *Fluids*, 7(9), 299, 2022.

Dissanayaka, K. D., Tanaka, N.: Hasan, M. K., Effect of orientation and vegetation over the embankment crest for energy reduction at downstream. *Geosciences*, 12(10), 354, 2022.

Wickramasinghe, R., Tanaka, N.: Investigation of hydrodynamics along an embankment generated by a nearby riparian vegetation patch. *Landscape and Ecological Engineering*, 1-19, 2022.

Sohail, I., Tanaka, T.: Experimental study on flow characteristics and energy reduction around a hybrid dike, *International Journal of Civil Engineering*, 2023, <https://doi.org/10.1007/s40999-023-00814-8>

Abbas F.K., Tanaka N., Amina, Numerical investigation of internal flow properties around horizontal layered trees by using the Reynold Stress model, *Mathematics*, 2023, 11, 712. <https://doi.org/10.3390/math11030712>

Rahman, M. A., Tanaka, N., & Rehemann, N.: Experimental study on reduction of scouring and tsunami energy through a defense system consisting a seaward embankment followed by vertically double layered vegetation. *Ocean Engineering*, 108816, 2021.

Dissanayaka, K. D. C. R., Tanaka N.: Integration of Eco-DRR and Hybrid Defense System on Mitigation of Natural Disasters (Tsunami and Coastal Flooding) – A review, *Natural Hazards*, 2021, <https://doi.org/10.1007/s11069-021-04965-6>

Naveed Anjum, Norio Tanaka, Md Abedur Rahman, Role of tree crown height for effective mitigation capability of inland coastal forest considering the flow structures and scour phenomena, *Ocean Engineering* 238, 109728, 2021.

Tanaka N., Igarashi Y., Zaha T.: Numerical investigation of the effectiveness of vegetation-embankment hybrid structures for tsunami mitigation introduced after the 2011 tsunami, *Geosciences*, 11, 440, 2021.

Naveed Anjum, Norio Tanaka: Investigating the effectiveness of discontinuous and layered coastal forest defense system against the inundating tsunami current, *Landscape and Ecological Engineering* 18, 171–190, 2022.

Abbas, F.M., Tanaka N. Numerical study of flow structures through horizontal double-layered vegetation consisting of combined submergent and emergent vegetations, *Journal of Earthquake and Tsunami*, 2022.

Md Abedur Rahman, Norio Tanaka: Countermeasure against local scouring and tsunami energy by landward forests behind a coastal embankment, *Applied Ocean Research*, 2021.

Torita, H., Igarashi, Y., Tanaka, N.: Effective management of Japanese black pine (*Pinus thunbergii* Parlat.) coastal forests considering tsunami mitigation, *Journal of Environmental Management*, 2022.

Tanaka, N., Igarashi, Y., Suenaga, H.: Effects of tree destruction and debris dam formation at the gravel-bed bars in Kumagaya in the Arakawa River on the maximum water depth and flood hydrograph during the flood event caused by typhoon Hagibis. *Journal of JSCE*, 10(1), 19-29, 2022.

Wickramasinghe, R., Tanaka, N.: Investigation of Flow Structures Along the Embankment Generated Nearby Finite Riparian Vegetation. In *Geohazard Mitigation* (pp. 43-53), 2022. Springer, Singapore.

小野瀬涼太, 田中規夫, 五十嵐善哉, 黄旭: 越水による侵食破壊メカニズムを考慮した新しい裏法面保護工法の検討, *河川技術論文集*, 第 28 卷, pp. 91-96, 2022.

五十嵐 善哉、田中 規夫、石原 慎也: 洪水時の高水敷や砂層への浸透を考慮した平面 2 次元洪水氾濫解析法の

開発、土木学会論文集 B1(水工学)、第 78 卷 2 号、2023.

五十嵐善哉, 田中規夫, 米沢拓繁, 天井洋平, 小川貴之: 荒川中流域の支川群の河道内植生が荒川本川および荒川第一調節池に与える影響, 河川技術論文集, 第 27 卷, pp. 259-264, 2021.

小内 堯、田中 規夫、伏見 健吾、五十嵐 善哉: 破堤点の相違による氾濫特性を考慮した避難解析にもとづく地域に適した避難手法分類, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.77, No.2, I_1513-I_1518, 2021.

田中規夫, 小野寺祐乃, 五十嵐善哉, 米沢拓繁, 天井洋平, 小川貴之: 荒川全流域における潜在的氾濫パターンの気候変動影響による変化, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.77, No.2, I_493-I_498, 2021.

海野瀬綾乃, 田中規夫, 五十嵐善哉, 小野瀬涼太, 黄旭: 堤防からの落下流特性に着目した実験と侵食破壊モデルによる堤防天端強化の有効性評価, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.77, No.2, I_361-I_366, 2021.

岩田敦行, 田中規夫, 五十嵐善哉: 出水時に観測された浮遊物捕捉形態の相違が樹林帯の抵抗特性に与える影響, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.77, No.2, I_1033-I_1038, 2021.

小林健一郎, 田中規夫, 丸山恭介, 田中翔, 渡部哲史, 北野利一: 令和元年東日本台風による荒川中流部洪水再現, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.77, No.2, I_1393-I_1398, 2021.

(B)論文

Ishihara S., Tanaka N., Igarashi Y.: Water-level propagation characteristics in the Arakawa River and its tributaries after construction of the Arakawa No.2 and No.3 retention basins, ICFM9, 2023.

Karaki Y., Tanaka N., Igarashi Y.: Elucidation of potential areas for “Paddy field dam”, a flood control measure in a watershed, using integrated rainfall, runoff, and flood analysis in the entire Arakawa Basin, ICFM9, 2023.

Dissanayaka K.D.C.R., Tanaka N.: Mohammed. Kamrul Hasan, Analytical and numerical validation of the drop length of nappe flow, Proc. 2nd International Conference on Advances in Civil and Environmental Engineering (ICACEE-2023), 2023.

Iqbal S., Tanaka N.: The impact of emerged vegetation on a submerged dike; A numerical study, Proc. 2nd International Conference on Advances in Civil and Environmental Engineering (ICACEE-2023), 2023.

田中規夫, 五十嵐善哉: 令和元年東日本台風の出水において歴史的・現代的治水施設群と支川群の破堤氾濫が荒川本川水位に与えた影響の相互比較, 第 20 回 都市水害に関するシンポジウム論文集, pp.1-7, 2021.

長田 昌彦

(A)論文

長田昌彦, 小澤一稀, 船引耕平, 金子義人, 高橋優輔. 史跡吉見百穴での IoT 技術の活用事例. 応用地質, Vol. 63, No. 6, pp. 297-306, 2023.

Yota Togashi, Kazuki Mizuo, Masahiko Osada, Tadashi Yamabe, and Hiroshi Kameya. Evaluating changes in the degree of saturation in excavation disturbed zones using a stochastic differential equation. *Comput and Geotech*, Vol. 143, p. 104598, 2022.

Yota Togashi, Takanobu Imano, Masahiko Osada, Koichi Hosoda, and Koji Ogawa. Principal strain rotation of anisotropic tuff due to continuous water-content variation. *International Journal of Rock Mechanics and Mining Sciences*, Vol. 138, p. 104646, 2021.

Yota Togashi, Takanobu Imano, Masahiko Osada, Koichi Hosoda, and Koji Ogawa. Principal strain rotation of anisotropic tuff due to continuous water-content variation. *International Journal of Rock Mechanics and Mining Sciences*, Vol. 138, p. 104646, 2021.

Masahiko Osada and Kohei Funabiki. Seasonal change of a fracture aperture in porous tuffaceous rock with 0.01mm -order real-time monitoring. In 5th International Workshop on Rock Mechanics and Engineering Geology in Volcanic Fields, pp.296-301, 2021.

(B)論文

東原知広, 市来高彦, 入江正明, 長田昌彦. 廃棄物埋設における掘削に伴う岩盤の力学状態と水理特性を踏まえた地下水移動評価の考え方. 第49回岩盤力学に関するシンポジウム講演集, pp. 247-252, 2023.

市来高彦, 東原知広, 入江正明, 長田昌彦. 廃棄物埋設における岩盤の力学水理連成試験機の製作と動作確認試験. 第49回岩盤力学に関するシンポジウム講演集, pp. 253-258, 2023.

小田部晏彦, 富樫陽太, 長田昌彦, 畠山健. 含水に伴う田下凝灰岩の強度変化と平均応力変化によるモデル化. 第49回岩盤力学に関するシンポジウム講演集, pp. 253-258, 2023.

川之上諒, 富樫陽太, 小林祐貴, 長田昌彦. 切羽崩壊の進行性に関するトンネル引抜き実験とすべり線の形状変化を考慮したアーチ作用のモデル化. 第49回岩盤力学に関するシンポジウム講演集, pp. 65-68, 2023.

富樫陽太, 平沢梨帆, 長田昌彦. ねじりを利用した岩石角柱供試体の単純せん断試験の提案. 第49回岩盤力学に関するシンポジウム講演集, pp. 161-165, 2023.

川之上諒, 八木橋辰紀, 富樫陽太, 長田昌彦. 地山のせん断抵抗角と土被りが切羽安定性に及ぼす影響の実験的検討. 第48回岩盤力学に関するシンポジウム講演集, pp. 242-247, 2022.

小砂子優貴, 富樫陽太, 畠山健, 川之上諒, 長田昌彦. 堆積軟岩における含水状態がモールクーロン破壊基準に及ぼす影響. 第48回岩盤力学に関するシンポジウム講演集, pp. 260-263, 2022.

内村 太郎

(A)論文

Shah S.K.H., Kayani J.Q., Uchimura T. and Kawamoto K.: Effect of degree of saturation on particle breakage of recycled concrete aggregate under cyclic loading. International Journal of GEOMATE, Japan, 2021. DOI: <https://doi.org/10.21660/2021.81.6171>

Gallage, Chaminda, Abeykoon, Tharindu, Uchimura, Taro: Instrumented model slopes to investigate the effects of slope inclination on rainfall-induced landslides, Soils and Foundations, 61(1), pp. 160-174, 2021, doi 10.1016/j.sandf.2020.11.006.

Hong Nam Thai, Akira Kato, Hoang Giang Nguyen, Tien Dung Nguyen, Ton Kien Tong, Van Tuan Nguyen, Taro Uchimura, Takeshi Maki, and Ken Kawamoto : Effects of particle size and type of aggregate on mechanical properties and environmental safety of unbound road base and subbase materials, International Journal of GEOMATE, Feb., 2021, Vol.20, Issue 78, pp. 148-157, 2021 DOI: <https://doi.org/10.21660/2021.78.GX281>

Jiren Xie, Taro Uchimura, Chao Huang, Zain Maqsood, Jingli Tian: Experimental study on the relationship between the velocity of surface movements and tilting rate in pre-failure stage of rainfall-induced landslides, Sensors, 2021, 21, 5988. <https://doi.org/10.3390/s21185988>

Wang Lin, Ichiro Seko, Makoto Fukuhara, Ikuo Towhata, Taro Uchimura, Shangning Tao: Risk evaluation and warning threshold of unstable slope using tilting sensor array, Natural Hazards, 2022, <https://doi.org/10.1007/s11069-022-05383-y>

Syed Kamran Hussain Shah, Taro Uchimura, Ken Kawamoto: Permanent Deformation and Breakage Response of Recycled

Concrete Aggregates under Cyclic Loading Subject to Moisture Change, *Sustainability*,14, 5427, 2022, <https://doi.org/10.3390/su14095427>

Waqar Ahmad, Uchimura Taro and Muhammad Umar : Comparison of the shear strength of unsaturated sandy soils at optimal and residual moisture contents, *International Journal of GEOMATE*, Jan., 2023, Vol.24, Issue 101, pp.43-51, 2023, DOI: <https://doi.org/10.21660/2023.101.3645>

Vidit Singh, Taro Uchimura : Influence of compositional analysis on unit weight of synthetic municipal solid waste, Vol.23 Issue 100, pp 134-141, 2023.

藤野 毅 (2021年度のみ)

(A)論文

MDHJ Senavirathna, L Zhaozhi and T Fujino: Root adsorption of microplastic particles affects the submerged freshwater macrophyte *Egeria densa*, *Water Air & Soil Pollution*, 233:80, 2022.

M Hagimori, F Hara, N Mizuyama, T Fujino, H Saji and T Mukai: High-affinity ratiometric fluorescence probe based on 6-Amino-2,2'-Bipyridine scaffold for endogenous Zn²⁺ and its application to living cells, *Molecules*, MDPI Journal, 27(4), 1287, 2022.

MDHJ Senavirathna, L Zhaozhi and T Fujino: Short-duration exposure of 3- μ m polystyrene microplastics affected morphology and physiology of watermilfoil (sp.roraima), *Environmental Science and Pollution Research*, 29:34475-34485, 2022.

MB Baniya, T Fujino, A Baniya, Shivaram KC and B Jha: Dam-induced alteration in seasonal fluvial discharge time series in Kali Gandaki hydropower dam, Syangja, Nepal, an application of wavelet analysis, *Journal of Water and Environment Technology*, 19(4):198-211, 2021.

JJ Ma, T Fujino, Y Lim, W Niyommaneerat and O Chavalparit: Greenhouse gas emission from palm oil industry in Thailand and its countermeasures, *International Journal of Earth & Environmental Sciences*, 6:184, 2021.

MDHJ Senavirathna, G Muhetaer, H Yan, B Aihemaiti and T Fujino: Stress and recovery responses of *Microcystis aeruginosa* exposed to extreme light for different durations, *Water, Air, & Soil Pollution*, 232:229, 2021.

ISP Nagahage, EAAD Nagahage, and T Fujino: Assessment of the applicability of a low-cost sensor-based methane monitoring system for continuous multi-channel sampling, *Environmental Monitoring and Assessment*, 193:509, 2021.

M Hagimori, Y Karimine, N Mizuyama, F Hara, T Fujino, H Saji and T Mukai: Selective cadmium fluorescence probe based on bis-heterocyclicmolecule and its imaging in cells, *Journal of Fluorescence*, 31(4):1161-1167, 2021.

VP Ranawakage, T Fujino and A Herbst: Copper contaminated water mediated biochemical changes on charophyte species *Chara braunii*, *Earth and Environmental Science*, 776:012005, 2021.

TAOK Meetiyyagoda, K Fadilah, M Hagimori, MDHJ Senavirathna and T Fujino: Visualization and quantification of the impact of humic acid on Zinc accumulation in aquatic plants using a low-molecular-weight fluorescent probe, *Journal of Water and Environment Technology*, 19(2):49-63, 2021.

MDHJ Senavirathna, G Muhetaer, KSS Atapaththu and T Fujino: *Egeria densa* Allelopathy on *Microcystis aeruginosa* under different light intensities and preliminary insight into inter parameter relationships, *Water Air and Soil Pollution*, 232:135, 2021.

堤田 成政 (2022 年度より)

(A)論文

Shin N., Kotani A., Tei S., Tsutsumida N.: Monitoring of cherry flowering phenology with Google Trends, *Plos One*,17(7): e0271648, 2022

Doi H., Osawa T., Tsutsumida N.: Assessing the potential repercussions of the COVID-19 pandemic on global SDG attainment, *Discover Sustainability*,3:2, 2022

Tsutsumida N., Nagai S.: Miura T., Evaluation of Land Surface Phenology for Autumn Leaf Color Change Based on Citizen Reports across Japan, *Remote Sensing*,14:2017, 2022

堤田成政：再現可能性を重視したオンラインでのジオコンピューテーション教育, *GIS -理論と応用*,29(2):59-64, 2022

Percival J., Tsutsumida N., Murakami D., Yoshida T., Nakaya T.: gwpcorMapper: an interactive mapping tool for exploring geographically weighted correlation and partial correlation in high-dimensional geospatial datasets, *Journal of Geovisualization and Spatial Analysis*,6:17, 2022

Tran T.A., Saizen I., Tsutsumida N., Venkatesh R., Le N.H., Nguyen V.A., Nguyen V.L., Thi T.N., Truong P.M., Flood vulnerability assessment at the local scale using remote sensing and GIS techniques: a case study in Da Nang City, *Journal of Water and Climate Change*,13(9):3217–3238, 2022

Ohata S., Osawa T., Sato N., Tsutsumida N., Large, concealed islands in the urban sea: Scattered surrounding green space enhances the quality of grassland habitats in urban parks, *Tokyo, Urban Ecosystems*, 2022

TT An, V Raghavan, NV Long, S Izuru, N Tsutsumida, A GIS-based Approach for Flood Vulnerability Assessment in Hoa Vang District, Danang City, Vietnam, *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*,652(1):012003, 2021

JJV Dida, CL Tiburan Jr, N Tsutsumida, I Saizen: Carbon Stock Estimation of Selected Watersheds in Laguna, Philippines Using InVEST, *Philippine Journal of Science*,150(2):501-513, 2021

E Rustiadi, AE Pravitasari, Y Setiawan, SP Mulya, DO Pribadi, N Tsutsumida: Impact of continuous Jakarta megacity urban expansion on the formation of the Jakarta-Bandung conurbation over the rice farm regions, *Cities*,111:103000, 2021

堤田成政,吉田崇紘,村上大輔,中谷友樹：地理的加重法の研究動向と今後の展望, *GIS 理論と応用*, 29(1), pp.11-21, 2021.

Nagai S., Maruya Y., Saito T.M., Tsutsumida N.: Usefulness of Social Sensing Using Text Mining of Tweets for Detection of Autumn Phenology, *Frontiers in Forests and Global Change*, 2021.

文理融合部門

久保田 尚

(A)論文

Ayesha Umme, Kojima Aya, Kubota Hisashi, An Analysis of the Women Commuters' Satisfaction in the Public Bus Service in Bangladesh: A Survey on Local Buses in Major Cities, *Journal of Transportation Technologies*,12(4), 2022.

Syed Arif Hussain Shah, Kubota Hisashi, Analyzing attitude towards ride-hailing services in developing countries: Case of Lahore, *IATSS Research*,46(2), pp.223-235, 2022.

Syed Arif Hussain Shaha and Kubota Hisashi, Passengers satisfaction with service quality of app-based ride hailing services

in developing countries: Case of Lahore, Pakistan, Asian Transport Studies, on-line(8), pp.1-9, 2022.

Ayesha Umme, Kojima Aya, Kubota Hisashi, Gap Analysis between Women Passengers' Perception and Expectations about Bus Service: A Case Study on Bangladesh, Journal of Transportation Technologies,12(2), 2022.

ZhenYu Xie, Aya Kojima, Hisashi Kubota, A study on the effect of sports on elderly traffic injury prevention, Journal of Safety Research, Volume 81, pp.55-66, 2022.

Toan VO, Aya KOJIMA, Hisashi KUBOTA, Proposing new speed hump signs and evaluating their effectiveness in Asian countries, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.14, pp.2294-2313, 2022.

Sajith UDAYANGA, Teppei KATO, Aya KOJIMA, Hisashi KUBOTA, Incorporating Crowdsourced Travel Time Data in Congestion Monitoring, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.14, pp.246-263, 2022.

Abdur Rahman, Kojima Aya, Kato Teppei and Kubota Hisashi, A mechanism to enhance bicycle conspicuity and visibility and increase detection distances: New insights into bicycle safety, IATSS Research,45(2), pp.241-250, 2021.

Rahman Abdur, Aya Kojima, Teppei Kato, Hisashi Kubota, Effectiveness of color blinking on the detection and recognition distances of bicycles, Advances in Transportation Studies, 55, pp.105-120, 2021.

内田 奈芳美

(A)論文

内田 奈芳美：新型コロナによるパンデミックがジェントリフィケーションに与えた影響 米国・シアトル市の2地区を事例として，都市計画論文集， Vol.57, No.3, pp.918-925, 2022.

加藤 哲平 (2021年度のみ)

(A)論文

Tani, R., Kato, T., Uchida, K.: A method for structuring stochastic travel time by using risk premiums of stochastic link flow, Transportmetrica A: Transport Science. Vol. 17, No.2, pp. 212-232, 2021.

Rahman, A., Kojima A., Kato T., Kubota H.: Effectiveness of color blinking on the detection and recognition distances of bicycles, Advances in Transportation Studies, 2021.

Tani, R., Takashima, I., Kato, T., Tamura, T., Uchida, K.: Analysis of the effect of bundled airport privatization on an airline network, Transport Policy, 2021. DOI: 10.1016/j.tranpol.2021.04.021.

Kato, T., Wakabayashi, K.: Study on Market Equilibrium of Ride Sharing Service Considering Uncertainty of User Matching, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, 14, 2021.

Udayanga, S., Kato, T., Kojima, A., Kubota, H.: Incorporating Crowdsourced Travel Time Data in Congestion Monitoring, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, 14, 2021.

小嶋 文 (2022年度より)

(A)論文

Rahman Abdur, Aya Kojima, Teppei Kato, Hisashi Kubota: Mechanism underlying the impact of perception time on detection and recognition distance: New insights into bicycle safety, Asian Journal of Civil Engineering, on-line (<https://doi.org/10.1007/s42107-023-00596-3>):on-line 202302

Ayesha Umme, Kojima Aya, Kubota Hisashi , Exploring the Commuters' Willingness-to-Pay and Its Influencing Factors for an Improved Public Bus Service in Dhaka City, Journal of Transportation Technologies,13(2) 2023.

Ayesha Umme, Kojima Aya, Kubota Hisashi , An Analysis of the Women Commuters' Satisfaction in the Public Bus Service in Bangladesh: A Survey on Local Buses in Major Cities, Journal of Transportation Technologies,12(4) 2022.

Ayesha Umme, Kojima Aya, Kubota Hisashi: Gap Analysis between Women Passengers' Perception and Expectations about Bus Service: A Case Study on Bangladesh, Journal of Transportation Technologies,12(2) 2022.

ZhenYu Xie, Aya Kojima, Hisashi Kubota, A study on the effect of sports on elderly traffic injury prevention, Journal of Safety Research, Vol.81:55-66 2022

Toan VO, Aya KOJIMA*, Hisashi KUBOTA, Proposing new speed hump signs and evaluating their effectiveness in Asian countries, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.14:2294-2313 2022.

Sajith UDAYANGA, Teppei KATO, Aya KOJIMA, Hisashi KUBOTA, Incorporating Crowdsourced Travel Time Data in Congestion Monitoring, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.14, pp.246-263, 2022.

Rahman Abdur, Aya Kojima, Teppei Kato, Hisashi Kubota, Effectiveness of color blinking on the detection and recognition distances of bicycles, Advances in Transportation Studies, 55, pp.105-120 2021.

佐伯 智士, 小嶋 文, 歩行者優先の道路整備に関わる住民・歩行者の主観的幸福感に関する研究, 土木学会論文集 D3, Vol.76, No.5, pp. I_113-I_126 2021.

Rahman Abdur, Kojima Aya, Kato Teppei, Kubota Hisashi, A mechanism to enhance bicycle conspicuity and visibility and increase detection distances: New insights into bicycle safety, IATSS Research, Volume 45, Issue 2, pp.241-250, 2021.

(B)論文

小嶋 文, 金子 由愛, 間邊 哲也, 保護者の認識から見た子どもの自転車乗車時の危険行動に関する研究, 第 42 回交通工学研究発表会論文集, Vol.42, pp.1-6, 2022,

佐々木敦史・小嶋文・久保田尚, ハンプによる面的対策実施地域における運転行動への影響に関する研究, 土木計画学研究・講演集,66:CD-ROM 2022

星野絢・小嶋文・久保田尚, ハンプの複数設置が住民・周辺地域へ及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・講演集,66:CD-ROM 2022.

加藤 菜々子・小嶋 文・久保田 尚, 住宅地におけるウォークアブルな道路整備提案の評価要因に関する研究, 土木計画学研究・講演集,65:CD-ROM 2022.

土屋 隆史・小嶋 文・若松 美弥・清水 俊希, 観光客の挙動に着目したスムーズ横断歩道設置の効果に関する研究, 土木計画学研究・講演集,65:CD-ROM 2022.

柴田大雅, 小嶋文, 山本俊雄, 久保田尚, 自動運転車両の事故防止のための減速に着目した路車間通信システム導入に関する研究, 第 41 回交通工学研究発表会論文集, Vol.41, CD-ROM, 2021.8.10.

我妻宏哉, 小嶋文, 久保田尚, ソフトライジングボラードの長期的な有効性に関する研究, 第 63 回土木計画学研究発表会・講演集, Vol.63, CD-ROM, 2021.6.

佐々木敦史・小嶋 文・久保田尚, 通学路におけるスムーズ横断歩道設置による自動車挙動に関する研究, 第 64 回土木計画学研究発表会・講演集, Vol.64 :CD-ROM 2021

奥井 義昭

【解説】

奥井義昭, 鋼橋の設計・評価技術の高度化, JSSC Topics 委員会活動とその成果, Journal of Steel Structures & Construction, No.46, Summer pp.41-42, 2021.

松本 泰尚 (2021年度のみ)

松本泰尚: 建築物における環境振動問題への取り組みの現状と今後の課題, 音響技術, No.195, 3-6, 2021.09

松本泰尚, 森原崇, 横島潤紀, 林健太郎: 鉛直-水平2軸交通振動に対する心理的応答評価に関する検討例, 音響技術, No.195, 26-31, 2021.09

牧 剛史

2022年制定コンクリート標準示方書 [設計編], 土木学会, 2023.3

浅本 晋吾

【著書・委員会報告書】

家田仁 [監修], 中居楓子・浅本晋吾[編集]: 日本インフラの技(わざ)ー原点と未来ー, 土木学会, 2022.12

複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響ー材料と構造の新たな境界問題ー, 複合構造レポート 19, 土木学会, 2022.8

党 紀

【著書】

(Chapter Author) Ji Dang: Chapter 18 Seismic Risk-Based Design for Bridge, Reliability-Based Analysis and Design of Structures and Infrastructure, CRC Press, ISBN:9780367758080, pp.275-284, 2021.

(Book Editors) Zhishen Wu, Tomonori Nagayama, Ji Dang, Rodrigo Astroza: Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures (Lecture Notes in Civil Engineering 224), Springer International Publishing, pp.1-592, ISBN:2366-2557, 2022.

【解説】

党紀: 若手研究者・技術者から見た地震工学, 日本地震工学誌, No.41, 2020.10.

党紀: AIプログラムを構築してみよう, 土木学会誌 2021年1月号, 2021.01.

党紀, 全邦釘: UAV画像からのピクセルレベルの橋梁損傷認識, 画像ラボ, pp.1-5, 2021.05

党紀: 外国籍の視点から見たD&I, 土木学会誌 2022年4月号, 特集「Allyへ繋がる途(みち)」, 2022.04.

党紀: UAV、AIとIoTを用いた橋梁損傷検知のDX, 日本地震工学会誌, No.46, pp.23-26, 2022.06.

【講演】

Ji Dang: Short Course Lecture: Introduction to deep learning for image-based condition assessment and UAV applications, the 9th International Conference on Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures, Nanjing China, 2019.

党紀: AI, UAV, IoTによる橋梁構造物のスマートな維持管理, 第73回令和3年度土木学会中国支部研究発表会特

別講演会「中国地方の社会資本の維持管理の現状と今後の展望」, 山口大学(Online), 2021.06.

党紀: 橋梁維持管理のための UAV 活用と AI 損傷認識の実装, ソフトバンク株式会社 SoraSolution ウェブセミナー 基調講演, 2022.03.

党紀: UAV と AI を活用したスマートな橋梁維持管理の実装と展望, 関西ライフライン研究会, 招待講演, 2022.1

防災・環境部門

田中 規夫

【報告書】

田中規夫, 河道管理研究推進・技術開発に向けたフィージビリティスタディ (助成番号: 2020-5211-061: 土木学会水工学委員会・河道管理研究小委員会、代表者名: 田中 規夫)、河川基金報告書, 2022.4.30.

【講演】

田中規夫, 河川氾濫リスクを踏まえた流域での減災方策、河川研究セミナー, 2022.10.13.

田中規夫, 河道管理研究推進・技術開発に向けたフィージビリティスタディ、令和4年度河川基金成果発表会, 2022.8.30.

田中規夫, 近年の水害の特徴・課題と今後の方向性、水害から命を守るシンポジウム ~歴史・経験に学び、未来につなげる~ (川島町), 2022.7.24.

田中規夫, 荒川の歴史と治水効果について、令和3年度 荒川上流河川事務所所内報告会 外部講師講演, 2021.11.19.

田中規夫, 近年の水害の特徴と流域治水へ向けての視点、埼玉「防災・減災」シンポジウム 主催城西大学で講演, 2021.11.12.

田中規夫, 越流侵食解析の実河川堤防への適用と落下流侵食機構のモデル化について、河川財団アドバイザ講演, 2021.9.28.

田中規夫, 荒川温故知新: 気候変動に流域治水で対処するための視点、WEBセミナー「~荒川温故知新~暮らしや仕事を守る「流域治水」」, 共催: クラウン総合技術研究所, 埼玉りそな銀行, 2021.9.16.

田中規夫, 荒川に現存する減災機能と流域治水: 荒川温故知新, 第33回セントラルコンサルタント技術発表会特別講演, 2021.6.25.

【著書】

田中規夫: 巻頭言, 雑誌河川 12月号, 2022.12.

田中規夫: 水害リスクを評価し、川づくりに生かし、避難活動に役立てたい、埼玉大学研究シーズ集 2021-2023, 2021.

田中規夫: 流域治水への減災研究、サイテックこらむ 495, 埼玉新聞 (<http://www.saitama-u.ac.jp/rikogaku/cms/wp-content/uploads/saiteku-495.pdf>), 2021.7.7.

【新聞掲載】

田中規夫 新聞掲載 東京新聞 (2023.1.18): 越辺川樹林帯影響に関するコメント

田中規夫 新聞掲載 埼玉新聞 (2022.12.15) : 荒川調節池に関するコメント

田中規夫 新聞掲載 読売新聞 (2022.11.8) : オープンフォーラム開催後

田中規夫 新聞掲載 読売新聞 (2022.11.2) : オープンフォーラム開催前予告

田中規夫 新聞掲載 読売新聞 (2022.7.28) : 川島シンポジウム

田中規夫 新聞掲載 埼玉新聞 (2022.5.12) : 越辺川遊水池に関するコメント

藤野 毅 (2021年度のみ)

【著書】

藤野毅他 : Springer 社 Impacts of Fukushima Nuclear Accident on Freshwater Environments(Nagao S. Ed.) 分担執筆
2022年1月6日発刊 (2021.9.17)

藤野毅 : ミャンマー・チン州南部国立公園の自然・少数民族文化・植生についてまとめた"Taxonomic Enumeration of Natma Taung National Park Vol.1" に" Water Environment and Land Use in Natma Taung National Park" を執筆

【講演】

スリランカ・コロombo大学のラムサール条約が採択された2月2日「世界湿地の日」のイベントとしてウェビナーで講演, 2022.2.4

藤野毅 : 昆虫 DNA 研究会第17回研究集会 (世話人 : 立正大学関根一希氏) にてオンライン授業「環境生物学実習」の講演, 2021.5.23

文理融合部門

久保田 尚

【著書】

編著者 : 久保田尚 / 大口敬 / 高橋勝美 著者 : 石神孝裕 / 稲原宏 / 井上紳一 / 加藤昌樹 / 小嶋文 / 佐野薫 / 須永大介 / 高砂子浩司 / 平見憲司 / 福本大輔、『改訂新版 読んで学ぶ交通工学・交通計画』、理工図書 202203

【研究論文等 (紀要等・単行本の分担執筆も含む)】

久保田尚、生活道路の安全・安心を守るために、積算資料公表価格版、一般財団法人経済調査会(229), pp.123-130, 2022

久保田尚、道路の新時代を迎えて、区画整理士会報、一般社団法人全日本土地区画整理士会(214), pp.1-4, 2022

【講演、テレビ・ラジオ】

CBS News 出演 How "Running Boy" became a Japanese cultural icon, even if he doesn't work that well, 20221229

E-Kizuna グローバルサミット (主催 : さいたま市)、モビリティのゼロエミッションへの挑戦(Challenge to zero-emission mobility) 、20221123

JA 共済 presents なるほど!交通安全 TOKYO FM / JFN 系列 出演『裏道・抜け道に潜む危険、20221223

NHK 首都圏情報ネタドリ! 出演 通学路の安全第二弾、20220523

NHK 未来スイッチ 出演 「声を集めて 通学路に安全を」、20220228

ゾーン30プラスセミナー2022 (主催 : 国土交通省・警察庁) 基調講演「ゾーン30プラス」のさらなる普及と

新展開を目指して、20221212

道路交通関連セミナー（主催：（一社）沖縄県測量建設コンサルタント協会） 講演 通学路等の事故の現状と生活道路対策、20220117

道路交通関連セミナー（主催：（一社）沖縄県測量建設コンサルタント協会） 講演 これからの道路空間のあり方について、20220117

沖縄県主催「沖縄鉄軌道とまちづくり」シンポジウム 基調講演及びパネルディスカッションコーディネータ「安全・安心なまちづくりの観点から公共交通の果たす役割について」、20221107

建設研修センター 「市町村道」研修 講演 市町村道における交通安全の取り組み、20221012

高齢者交通研究会 講演 通学路 Vision Zero のその後の展開とゾーン 30 プラスの役割と課題、20220907

埼玉県土木技術職員研修（主査） 講義 社会資本整備のあり方（道路及びまちづくり）、20221028

埼玉県鉄道新線整備連絡会議研修会 講演 公共交通とまちづくり、20221128

第 66 回土木計画学研究発表会「沖縄復帰 50 年スペシャルセッション」講演 子どもの未来を開く沖縄、20221112

東京都高度技術政策研修報告セミナー 講演 都市交通と道路空間の今後の展開、20230113

和光市版スーパーシティ構想まちづくりシンポジウム 基調講演及びパネルディスカッションコーディネータスーパーシティから考える都市の未来、20230123

オンラインシンポジウム 過去と未来の首都圏道路ネットワークと道路の機能強化 基調講演 新たな道路ネットワークと首都圏の未来～核都市広域幹線道路への期待、20230310

小中 鉄雄

【講演等】

小中鉄雄：茶の水女子大学第 2 2 回 SDG s セミナー講演（「SDGs とインフラ支援」 2 0 2 2 年 1 2 月 1 3 日

深堀 清隆

【講義・講演等】

深堀清隆：講義「公共施設における先導的な景観づくり」さいたま市景観研修, 2021 年 11 月 22 日

深堀清隆：講義「公共施設における色彩設定の考え方」さいたま市景観研修, 2022 年 8 月 19 日

深堀清隆：講義「地域の自然を活かした公園づくりへの期待」上尾丸山公園水辺守講習会, 2022 年 8 月 28 日

深堀清隆：パネラー「飯能中心市街地の景観形成について」NPO 法人埼玉ハンノウ大学, 飯能市市民活動

深堀清隆：支援事業「歴史的建造物を活用した景観まちづくりの形成」2022 年 10 月 5 日

内田 奈芳美

【翻訳】

(共訳) ジェフ・スペック 著 監訳松浦 健治郎, 訳 石村 壽浩, 内田 晃, 内田 奈芳美, 長 聡子, 益子 智之: ウォークアブルシティ入門: 10 のステップでつくる歩きたくなるまちなか, 学芸出版社(2022), 担当ページ: pp.14-54

【論説等】

内田奈芳美: パンデミックを経たアメリカの都市の現在, 都市計画学会都市計画, 359 号 p.8 2022

内田奈芳美: ウォークアビリティと公共空間活用: NY のアウトドア・ダイニングから考える, 日本建築学会大会(北海道)都市計画部門研究懇談会資料「ウォークアブルシティに向けたアーバンストリートの統合デザイン」 pp.35-36, 2022

内田奈芳美「道路を活用したまちづくりにおいて「スマート」であることの意味」「高速道路と自動車」4月号 pp.3-6, 2022

【講演】

山納洋×内田奈芳美「パンデミックでアメリカの都市はどう変わったか: 日常回復期の滞在からの考察」がくげいラボ×Talkin' About, vol.16, 2022

内田奈芳美: 招待講演“Is there gentrification in Japan?” アジア経済研究所 2022

加藤 哲平

【講演】

Kato, T., Wakabayashi, K.: Study on Market Equilibrium of Ride Sharing Service Considering Uncertainty of User Matching, The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies, 2021.

Udayanga, S., Kato, T., Kojima, A., Kubota, H.: Incorporating Crowdsourced Travel Time Data in Congestion Monitoring, The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies, 2021.

石川達也, 加藤哲平: 自動運転車と普通自動車の混在流における交通容量の不確実性を考慮した均衡配分モデルに関する研究, 第 19 回 ITS シンポジウム, 2021,

小嶋 文

【講義・講演等】

小嶋文, 「歩行者に優しいまちなかを支えるさまざまな道路」, 公益社団法人 日本交通計画協会第 21 回エッセンシャルセミナー 『これからの都市のあり方～ウォークアブルな空間×都市交通』, 2021.12.13

奥井 義昭

奥井 義昭, 熊木 和輝, 佐久間 智, 非合成連続鉄桁橋のシステムリダンダンシーと既設橋の耐荷力評価のためのシステム係数の検討, 土木学会全国大会年次学術講演会概要集, [I-224], 2022.

佐藤 俊介, 堂内 悠吾, 奥井 義昭, 鋼棒ストッパーの径が鋼棒ストッパー降伏時の変形量に及ぼす影響, 土木学会全国大会年次学術講演会概要集, [V-357], 2022.

松本 泰尚 (2021年度のみ)

S. Gohar, Y. Matsumoto, S. Lhamo, S. Sakuma: Effects of damage on vibration characteristics of reinforced concrete deck slabs in an existing steel girder bridge, Proceedings of the 9th International Conference on Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures, S1-4, 1-7, 2021.

岩根康之, 小林真人, 佐藤考浩, 松本泰尚: 振動制御装置を用いた環境振動の伝播経路対策—模型実験による振動制御装置の配置に関する検討—, 土木学会第76回年次学術講演会講演概要集, VII-19, 2021.

S. Gohar, Y. Matsumoto, T. Maki, S. Sakuma: An investigation of influence of horizontal crack and loading states on the modal parameters of reinforced concrete slab, 土木学会第76回年次学術講演会講演概要集, CS2-23, 2021.

林健太郎, 松本泰尚, 横島潤紀, 東田豊彦: 水平振動評価における振動の継続時間の影響に関する検討, 2021年度日本建築学会大会(東海)学術講演梗概集, 40207, 435-436, 2021.

松本泰尚, 森原崇, 横島潤紀, 林健太郎: 交通振動・騒音同時暴露に対する心理的応答評価に関する一検討, 2021年度日本建築学会大会(東海)学術講演梗概集, 40209, 439-440, 2021.

S. Yokoshima, T. Morihara, Y. Matsumoto: Effects of the railway category and noise on vibration annoyance, The 13th International Congress on Noise as a Public Health Problem, 2021.

C. Marquis-Favre, E. Parizet, T. Morihara, S. Yokoshima, Y. Matsumoto: Cross-cultural laboratory study on combined noise and vibration of Shinkansen pass-by, The 13th International Congress on Noise as a Public Health Problem, 2021.

牧 剛史

吉田祐太, 牧 剛史: 定着部が劣化したPC梁の力学的性状に関する研究, 土木学会全国大会第76回年次学術講演会講演概要集, [V-186], 2022.9

Yosuke Ishihara, Koyo Hikichi, Takeshi Maki and Hiroshi Mutsuyoshi: A collision test of developed precast concrete barriers for replacing on existing RC slabs, The 76th RILEM Annual Week and International Conference on Regeneration and Conservation of Structures (ICRCS 2022), 2022.9

浅本 晋吾

T. Sampei, S. Asamoto and K. Takahashi: Drying shrinkage characteristic of cementitious material combined with polyurethane, The proceedings of 76th RILEM annual week ICRCS 2022

小山 凜太郎, 浅本 晋吾, 松井 久仁雄: 結晶性ケイ酸カルシウム材料の収縮特性の検討, 土木学会第76回年次学術講演会講演概要集, V-408, 2021.9

三瓶 時生, 浅本 晋吾, 高橋 恵輔: 疎水性ポリマーを混合したモルタルの水分浸透と収縮特性に関する研究, 土木学会第76回年次学術講演会講演概要集, V-408, 2021.9

党 紀

党紀, 談雨晴, 五十嵐晃, 姫野岳彦, 濱田由記, 鶴野禎史: 低温時高減衰ゴム支承を用いた免震橋のハイブリッド実験, 第 23 回橋梁等の耐震設計シンポジウム講演論文集, Vol.23, pp.215-227, 2021.01.

Yuqing TAN, Ji DANG, Akira IGARASHI, Takehiko HIMENO, Yuki HAMADA, Yoshifumi UNO: Low temperature hybrid simulations for high damping rubber bearings, 第 11 回インフラ・ライフライン減災対策シンポジウム講演集, 2021.

Katrina MONTES, Ji DANG: Nonlinearity Recognition Using 2-Layer Neural Network for Design of New Type of Rubber Bearings, 第 11 回インフラ・ライフライン減災対策シンポジウム講演集, 2021.

Zuo Rongzhi, 党紀, 鶴野禎史, 清水和弘, 鈴木康寛: IoT センシングによる橋梁支承の変位モニタリング手法の開発, 第 11 回インフラ・ライフライン減災対策シンポジウム講演集, 2021.

Yuqing Tan, Ji Dang, Akira Igarashi, Takehiko Himeno, Yuki Hamada: Hybrid Simulation for Seismic Isolation Effectiveness Assessment of HDR Bearings at Low Temperature, Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures: Select Proceedings of the EVACES 2021, pp.295-306, 2021.

Yuqing Tan, Ji Dang, Akira Igarashi, Takehiko Himeno, Yuki Hamada: A Thermo-Mechanical Coupled Model of Hysteresis Behavior of HDR Bearings, Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures: Select Proceedings of the EVACES 2021, pp.307-320, 2021.

Katrina Montes, Ji Dang, Yuqing Tan, Akira Igarashi, Takehiko Himeno: Machine Learning Enhanced Nonlinear Model Parameter Selection from HDR-S Cyclic Loading Test, Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures: Select Proceedings of the EVACES 2021, pp.531-544, 2021.

Sal Saad Al Deen Taher and Ji Dang: Autonomous Multiple Damage Detection and Segmentation in Structures using Mask R-CNN, Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures: Select Proceedings of the EVACES 2021, pp.545-556, 2021.

Katrina Montes, Ji Dang, Yuqing Tan, Akira Igarashi, Takehiko Himeno: Nonlinear Model Classification of HDR-S Bearing under Low Temperature using Artificial Neural Network, Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures: Select Proceedings of the EVACES 2021, pp.557-566, 2021.

Katrina Montes, Ji Dang, Yuqing Tan, Akira Igarashi, Takehiko Himeno: Elastomeric bearing's nonlinear parameter identification using artificial neural network, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS2-31, 2022.9.

ティハ、劉翠平、党紀、大浦 雅幸、シャリスタ アシシ: 建設業における海外出身技術者の受け入れ現状および課題に関する調査研究 ～その 1 調査背景および実施方法～, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS4-01, 2022.9.

ティハ、劉翠平、党紀、大浦 雅幸、シャリスタ アシシ: 建設業における海外出身技術者の受け入れ現状および課題に関する調査研究 ～その 2 アンケート調査結果～, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS4-02, 2022.9.

原田尚樹, 鈴木陽平, 党紀: 積層シリコンゴム支承の基礎的な力学性能に関する実験的研究, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS10-56, 2022.9.

党紀, 談雨晴, 濱田由記, 福澤啓太, 姫野岳彦, 五十嵐晃: 高減衰積層ゴム支承の低温実時間ハイブリッド実験, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS10-57, 2022.9.

ZUO RONGZHI, 党紀, 清水和弘, 角田明, 鈴木康寛: Application of Deep Autoencoder on Damage Detection for Bridge Bearings, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS11-07, 2022.9.

劉佳明, 党紀: DeepLabv3+を用いた橋梁腐食損傷のセマンティックセグメンテーション, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS14-09, 2022.9.

藤嶋斗南, 党紀: 点検橋梁の画像追加による UAV 損傷検出の強化, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS14-11, 2022.9.

Bhatta Sanjeev, Ji Dang: Seismic damage assessment of RC buildings using artificial neural network, 土木学会第 77 回年次学術講演会講演概要集, CS14-26, 2022.9.

Sanjeev BHATTA, Ji DANG: Prediction of Damage State of RC Buildings Using Machine Learning, 8th World Conference on Structural Control and Monitoring 2022.

Yuqing Tan, Akira Igarashi, Ji Dang, Takehiko Himeno, Yuki Hamada: A thermo-mechanical coupled model of hysteresis behavior of HDR bearings, IABSE Symposium Prague 2022 - Challenges for Existing and Oncoming Structures, 2022.

Katrina Montes, Ji Dang, Akira Igarashi, Yuqing Tan, Takehiko Himeno: Nonlinear behavior identification of HDR-S bearing using neural network for seismic structural design, IABSE Symposium Prague 2022 - Challenges for Existing and Oncoming Structures, 2022.

防災・環境部門

田中 規夫

Tanaka, N., Hybrid defense system for inundating tsunami current or overbank flow from a river (keynote lecture), APD-IAHR2022, Chennai, India, 14/Dec/2022

小野瀬涼太、田中規夫、五十嵐善哉、越水による侵食破壊メカニズムを考慮したグリッド材工法の検討、第 10 回河川堤防技術シンポジウム論文集、4p.、2022.

Aqiq Ahamd Mosadiq, Romitha Wickramasinghe, Norio Tanaka, Experimental investigation on overtopping and inundation hydrodynamics around an open dike with riparian forest, Proceedings of the 23rd International Summer Symposium (Japan Society of Civil Engineers), CS2-30(DVD), September 2020, Japan, 2021.

丸山恭介, 小林健一郎, 田中規夫, 渡部哲史, 北野利一, 荒川流域における気候変動による確率降水量の変化分析, 令和 3 年度土木学会全国大会 第 76 回年次学術講演会, II -45, 2021. (発表日 20210909)

海野瀬綾乃、田中規夫、五十嵐善哉、落下流による侵食破壊モデルの実河川堤防への適用と課題、第 9 回河川堤防技術シンポジウム論文集、pp.9-10、2021.

Rajapaksha K.M.S.K., Tanaka N., Estimate the soil erosion in Urayama watershed using Soil and Water Assessment Tool (SWAT), Proceedings of the 8th International Symposium on Advances in Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development ACEPS – 2021, pp.423-430, 2021.

Tanaka, N., Backwater rise and current around patchy type vegetation after trapping debris at a flood event, 3rd-JSCE-CCES-JOINT SYMPOSIUM (2021/10/20-21 : ONLINE) , 2021.

Tanaka, N., Changes in the vegetation resistance in a river at a destructive large flood event , 1st International Conference on Advances in Civil & Environmental Engineering, Special lecture, UET TAXILA (1st ICACEE-2022), 2022.

長田 昌彦

長田昌彦, 大沢光司, クリスティーナ・プツリ, 野澤海人. 外気圧の周期的変動に対する岩石ブロック内の気圧応答. 日本応用地質学会令和 4 年度研究発表会講演論文集, pp. 201-202, 2022.

長田昌彦, 船引耕平, 高橋優輔. 長期モニタリングによる多孔質凝灰岩の割れ目開口幅の季節変化. 日本応用地

内村 太郎

Shah S.K.H., Uchimura T. and Kawamoto K. (2021): Effect of moisture content on particle breakage of recycled concrete aggregates during compaction, Proceedings of 1st International Symposium on Construction Resources for Environmentally Sustainable Technologies (CREST) 2020, Fukuoka Japan., Advances in Sustainable Construction and Resource Management, by Springer. DOI: <https://doi.org/10.1007/978-981-16-0077-7>

市村和輝・内村太郎 (2022): 軽量粒状体(EPS)を加えたセメント改良土の締固め特性, 第57回地盤工学研究発表会発表講演集, ROMBUNNO.22-3-2-05.

Waqar Ahmad, Uchimura Taro and Muhammad Umar (2022): Evaluation of Soil Water Characteristics Curve Estimation and Prediction Techniques, The 16th International Conference on Geotechnical Engineering, 7-8 December, 2022, Pakistan.

藤野 毅 (2021年度のみ)

藤野 毅:スリランカ・コロンボ大学のラムサール条約が採択された2月2日「世界湿地の日」のイベントとしてウェビナーで講演, 2022. 2. 4

藤野 毅:昆虫DNA研究会第17回研究集会(世話人:立正大学関根一希氏)にてオンライン授業「環境生物学実習」の講演, 2021. 5. 23

堤田 成政 (2022年度より)

堤田 成政, 村上 大輔, 吉田 崇紘, 中谷 友樹, 多変量地理空間データからの総合指標作成手法の比較, 地理情報システム学会第31回学術研究発表大会 2022.

Narumasa Tsutsumida, Social Sensing: An important research resource, National Geographic Science Agora 2022.

Tsutsumida N., Murakami D., Yoshida T., Nakaya T., Binbin L., Harris P., and Comber A., A Comparison of Geographically Weighted Principal Components Analysis Methodologies, 15th International Conference on Spatial Information Theory (COSIT 2022), 15th International Conference on Spatial Information Theory (COSIT 2022), 240:21:1--21:6 2022.

Murakami D., Tsutsumida N., Yoshida T., and Nakaya T., Large-Scale Spatial Prediction by Scalable Geographically Weighted Regression, 15th International Conference on Spatial Information Theory (COSIT 2022), 15th International Conference on Spatial Information Theory (COSIT 2022), 240:12:1--12:5 2022.

Tsutsumida N., Zhao J., Nasahara K., and Tadono T., Land cover classification from street-level photos, IGARSS2022, 2022 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium: 5524-5526 2022.

Funada S. and Tsutsumida N., Mapping cherry blossoms from geotagged street-level photos, IGARSS2022, 2022 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium: 5645-5647 2022.

舟田宗弥, 堤田 成政, 車載カメラ画像を用いた桜開花マッピング, 第69回日本生態学会大会 2022.

Tsutsumida N., Zhao J., Nasahara K. and Tadono T., Estimating Land Cover from Geo-tagged Street-level Photos AGU Fall meeting 2021 2021.

村上大輔, 堤田 成政, 吉田 崇紘, 中谷 友樹, 疎なカウントデータのための地理的加重ポアソン回帰の安定化・高速化, 地理情報システム学会第30回学術研究発表大会 2021.

堤田 成政, 村上大輔, 吉田 崇紘, 中谷 友樹, カーネルの重みをスパース推定する新たな地理加重回帰の提案, 地理情報システム学会第30回学術研究発表大会 2021.

Thongrueang N., Nakaya T., Tsutsumida N., Impact of COVID-19 Outbreak on Air Quality in Thailand, 地理情報システム学会第 30 回学術研究発表大会 2021.

吉田 崇紘, 村上大輔, 瀬谷創, 堤田 成政, 中谷 友樹, 定数和制約と誤差相関を考慮した組成データのための地理的加重回帰, 地理情報システム学会第 30 回学術研究発表大会 2021.

堤田成政, 土地被覆分類データの空間精度・空間誤差, 日本測量学会関西支部 109 回テクニカルセミナー/空間情報話題交換会 2021.

Murakami D., Tsutsumida N., Yoshida T., Nakaya T., Lu B. and Harris P., Stable geographically weighted Poisson regression for count data, GIScience, GIScience 2021 Short Paper Proceedings 2021.

Yoshida T., Murakami D., Seya H., Tsutsumida N., and Nakaya T., Geographically weighted regression for compositional data: An application to the U.S. household income compositions, GIScience, GIScience 2021 Short Paper Proceedings 2021.

Kato A. and Tsutsumida N., Deep learning with 3D laser data to identify tree species, silvilaser 2021.

Miura T., Nagai S., Tsutsumida N., Yamamoto Y., Himawari-8 AHI NDVI Temporal Signature Variability of Broadleaf Deciduous Forests Along Temperature, Elevation, and Latitudinal Gradients in Northern Japan, JpGU 2021.

文理融合部門

久保田 尚

佐々木敦史・小嶋文・久保田尚、ハンブによる面的対策実施地域における運転行動への影響に関する研究、土木学会, 土木計画学研究・講演集(66):CD-ROM 202211

星野絢・小嶋 文・久保田尚、ハンブの複数設置が住民・周辺地域へ及ぼす影響に関する研究、土木学会, 土木計画学研究・講演集(66):CD-ROM 202211

加藤 菜々子・小嶋 文・久保田 尚、住宅地におけるウォークアブルな道路整備提案の評価要因に関する研究、土木学会, 土木計画学研究・講演集(65):CD-ROM 202206

Mursheda RAHMAN, Aya KOJIMA, Hisashi KUBOTA, Determining Vehicle Speed at the Entrance of a Traffic Calmed Street Using Linear Mixed Effect Models, Eastern Asia Society for Transportation Studies 2021 Conference, Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, [巻]13:オンライン 202109

柴田大雅, 小嶋文, 山本俊雄, 久保田尚、自動運転車両の事故防止のための減速に着目した路車間通信システム導入に関する研究、第 41 回交通工学研究発表会論文集, Vol.41:CD-ROM 2021

我妻宏哉, 小嶋文, 久保田尚、ソフトライジングボラードの長期的な有効性に関する研究、第 63 回土木計画学研究発表会・講演集, Vol.63:CD-ROM 2021

佐々木敦史・小嶋文・久保田尚、通学路におけるスムーズ横断歩道設置による自動車挙動への影響に関する研究 第 64 回土木計画学研究発表会・講演集, Vol.64 :CD-ROM 2021

小嶋 文

Hasina IASMIN, Aya KOJIMA, Hisashi KUBOTA, M., Kojima, A., Kubota, H., Classification analysis of Left turn driver's yielding decision towards pedestrian and cyclist on crosswalk at signalized intersection, Eastern Asia Society for Transportation Studies 2021 Conference

Mursheda RAHMAN, Aya KOJIMA, Hisashi KUBOTA, M., Kojima, A., Kubota, H., Determining Vehicle Speed at the Entrance of a Traffic Calmed Street Using Linear Mixed Effect Models, Eastern Asia Society for Transportation Studies 2021 Conference

2-3 社会的貢献（外部委員会の役員等）

インフラ強靱化部門

奥井 義昭

国土交通省関東地方整備局 入札監視委員会委員

国土交通省関東地方整備局 公正入札調査委員会における外部有識者

埼玉県 総合評価審査委員会委員

さいたま市 建設工事総合評価入札審査委員

川口市 総合評価方式学識経験者

MEDO 先導研究プログラム/エネルギー・環境新技術先導研究プログラムサステナブルな鋼構造系インフラ用の高性能鋼材と利用技術の研究開発」研究開発推進委員会委員

（一財）阪神高速先進技術研究所 UFC 道路橋床版研究会技術委員会委員

土木学会 鋼構造委員会 架設設計施工指針改定小委員会委員長

日本鋼構造協会 運営委員会委員

日本鋼構造協会 土木鋼構造診断士特別委員会委員

松本 泰尚（2021年度のみ）

埼玉県 公害審査会 委員

埼玉県 総合評価審査委員会 委員

栃木県 公害審査会 委員

栃木県 大規模小売店舗立地審議会 委員

さいたま市 環境影響評価技術審議会 委員

蕨市 公共事業評価監視委員会 委員

土木学会 鋼構造委員会 鋼橋の騒音・振動低減に向けた設計検討小委員会 幹事長

土木学会 構造工学委員会 構造工学論文集編集小委員会 第4部門分科会 委員

日本建築学会 環境工学委員会 委員

日本建築学会 環境工学委員会 環境振動運営委員会 主査

日本建築学会 環境工学委員会 環境振動運営委員会 環境振動評価小委員会 委員

日本建築学会 構造委員会 木質構造運営委員会 木質構造の振動障害に関する設計資料作成小委員会 委員

日本音響学会 編集委員会論文部会 委員

日本音響学会 騒音・振動研究委員会 委員

日本騒音制御工学会 理事

日本騒音制御工学会 研究部会 副部会長

日本騒音制御工学会 道路交通振動予測式作成分科会 幹事

日本騒音制御工学会 環境振動評価分科会 委員

広島高速道路公社 広島高速5号線トンネル施工管理委員会 委員

首都高速道路技術センター 首都高速道路の橋梁に関する調査研究委員会 委員

牧 剛史

【学協会の運営等に係る委員会】

土木学会 コンクリート委員会（常任委員兼幹事：2019.4～2022.3）

土木学会 複合構造委員会（委員：2011.4～2013.3，委員兼幹事：2013.4～2021.3，副委員長：2021.4～2023.3）

日本コンクリート工学会 関東支部 執行委員会（委員兼埼玉地区代表幹事）

日本鉄筋継手協会（理事：2019.6～2023.5）

【学術雑誌等の編集に係る委員会】

プレストレストコンクリート工学会 学会誌編集委員会 論文審査小委員会（委員）（2022.4～2025.3）

日本コンクリート工学会 年次論文査読委員会（幹事）（2019.7～2021.6）

【技術規準・指針等策定に係る委員会】

土木学会 コンクリート委員会 示方書改訂小委員会（設計編部会幹事，構造設計 WG 主査）（2020.4～2023.3）
土木学会 複合構造委員会 複合構造標準示方書改訂小委員会（幹事，設計編部会部会長）（2015.6～2024.3）
土木学会 原子力土木委員会 地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会（受託側委員）（2015.7～継続中）
プレストレストコンクリート工学会 PC 橋プレキャスト工法技術規準作成小委員会（委員）（2020.9～2023.8）
プレストレストコンクリート工学会 既設ポストテンション橋の再生・補修・補強検討委員会（委員）（2019.5～2021.8）

【資格審査等に係る委員会】

土木学会 コンクリート委員会 コンクリート標準示方書に基づく数値解析認証小委員会（幹事長）（2014.12～）
首都高速道路技術センター 点検技術者資格認定委員会（委員）
首都高速道路技術センター 都市道路構造物点検技術者資格認定小委員会（委員）

【研究委員会】

土木学会 コンクリート委員会 部材詳細の設計と照査に関する研究小委員会（副委員長）（2018.6～2023.12）
土木学会 コンクリート委員会 カーボンニュートラルに向けたコンクリート分野の新技术活用に関する研究小委員会（委員）（2021.12～2023.6）
土木学会 複合構造委員会 複合構造技術の発展に関する調査小委員会（委員長）（2023.1～2024.12）
土木学会 複合構造委員会 Society5.0 に向けた社会インフラの管理システム構築のための調査研究小委員会（委員長）（2023.3～2024.3）

【その他の委員会】

国土交通省鉄道局 新幹線の地震対策に関する検証委員会（委員）（2022.5～2024.3）
首都高速道路技術センター 首都高速道路の橋梁に関する調査研究委員会（委員）
首都高速道路技術センター 首都高速道路の保全技術に関する検討部会・コンクリート部会（委員）
土木学会 複合構造委員会 シンポジウム小委員会（委員：2013.4～2021.3，委員長：2021.4～2023.3）

【博士論文の学外審査委員】

栗原遼大：The influence of rebar corrosion on steel-to-concrete bond and stress transfer of damaged concrete around rebar and its implementation into structural analysis model（東京工業大学，主査：千々和伸浩准教授）2022.3
河村圭亮：狭隘な施工条件下で適用可能な鉄筋コンクリート構造物の耐震補強技術の開発と補強メカニズムの検討（名古屋大学，主査：中村光教授）2021.9
大塚 努：異高型複断面トンネルの耐震性能評価方法の構築（横浜国立大学，主査：前川宏一教授）2021.9
高橋智彦：熱-水-力学応答連成解析による LNG 地下タンク躯体の温度応力による剛性低下の解明とひずみによる耐震性能照査（東京大学，主査：石田哲也教授）2020.9
後藤隆臣：地震力を受ける鉄筋コンクリート壁部材に用いる機械式継手工法の合理化に関する研究（高知工科大学，主査：島弘教授）2020.3

浅本 晋吾

2022年4月- 土木学会 2022年度 会長プロジェクト土木グローバル化総合委員会 委員
2022年4月- 日本コンクリート工学会 マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会 幹事
2022年4月- 日本コンクリート工学会 コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する FS 委員会 副委員長
2022年4月- 日本コンクリート工学会 ISO/TC71 対応国内委員会 TF 主査
2022年4月- 日本コンクリート工学会 ISO/TC71 対応国内委員会 委員
2022年4月- 日本コンクリート工学会 コンクリート工学論文集編集委員会 委員
2021年6月- 土木学会 土木学会論文集 E2 分冊編集小委員会 委員
2021年4月- 日本コンクリート工学会 ACF 対応委員会 委員
2021年4月- 日本コンクリート工学会 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会 委員
2020年10月- 日本コンクリート工学会 マスコンクリートソフト普及委員会 委員
2020年2月- ACF Technical Committee: Concrete practices and feasible measures for construction and design in hot

weather conditions based on material characteristics 委員長
2019年9月- RILEM Technical Committee: Early age and long-term crack width analysis in RC Structures 委員
2018年10月-2022年3月 土木学会構造工学委員会 構造工学での AI 活用に関する研究小委員会 幹事 (終了)
2021年4月-2022年7月 日本コンクリート工学会 JCI年次大会2022(千葉): 実行委員会 委員 (終了)
2021年4月-2022年3月 土木学会 構造工学委員会 構造工学のパラダイムシフトを目指すブレインストーミング小委員会 委員長 (終了)
2019年8月-2022年3月 土木学会複合構造委員会 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会 2期 幹事 (終了)
2018年4月-2022年3月 日本コンクリート工学会 マスコンクリートのひび割れに関する調査委員会 幹事 (終了)
2020年4月-2021年3月 日本コンクリート工学会 内部膨張反応によるコンクリートの膨張評価と予測に関するFS委員会 委員 (終了)

党 紀

土木学会, 性能に基づく橋梁等構造物の耐震設計法に関する研究小委員会 委員 (2014~)
日本地震工学会, 日本地震工学会論文集編集委員会 編集委員 (2017.04~2022.03)
土木学会, 国際センター留学生グループ 委員、リーダー (2020.04~)
土木学会, AI・IoT技術の地震工学への有効活用検討小委員会 委員 (2018.08~)
土木学会, 構造工学委員会, 構造工学でAI活用に関する研究小委員会 幹事(2018.04~)
土木学会, 地震工学委員会, 地震災害軽減のためのダメージフリー構造技術に関する調査研究小委員会 幹事 (2020.04~)
土木学会, コンサルタント委員会 グローバルシビルエンジニア研究小委員会 委員 (2020.12~)
土木学会, 地震工学委員会 委員 運営幹事 (2021.04~)

防災・環境部門

田中 規夫

IAHR 日本支部 理事(2011-)
IAHR 日本支部副支部長 (2018.3-)
APD-IAHR 日本委員(2014-)
APD-IAHR 議長(2023-)
土木学会水工学委員会委員 (兼幹事)
土木学会水工学委員会基礎水理部会部会員
土木学会水工学委員会基礎水理部会生態水理分科会主査
土木学会水工学委員会河道管理研究小委員会 (委員長) (2019-)
国土交通省関東地方整備局事業評価監視委員会委員 (2016-)
国土交通省利根川下流河川事務所リバーカウンセラー
国土交通省利根川・江戸川河川整備計画フォローアップ委員会 委員(2020-)
国土交通省利根川下流部の計画段階評価検討委員会 (2020-)
国土交通省利根川下流北千葉導水路長寿命化検討委員会委員(2014-2015, 2019-)
国土交通省荒川上流河川事務所リバーカウンセラー
国土交通省荒川河川水系河川整備計画フォローアップ委員会 委員長(2021-)
国土交通省荒川上流河川事務所 総合評価審査分科会委員 (会長)
国土交通省荒川下流河川事務所 総合評価審査分科会委員 (会長)
国土交通省二瀬ダム管理所 総合評価審査分科会委員 (会長)
国土交通省荒川調節池工事事務所 総合評価審査分科会委員
北海道庁: 海岸防災林における新たな整備手法に関する検討委員会委員 (2013-2015)
埼玉県河川整備計画策定専門会議 (会長) (2019-)
埼玉県国土利用計画審議会 (副会長) (2020-)
埼玉県地域強靱化推進専門委員会 (副委員長) (2017-)

神奈川県河川委員会(2020-) 2022 から委員長
水資源機構水資源機構の業績評価に係る外部有識者 (2019-)
水資源機構利根川・荒川水系ダム・堰等機能の維持・改善に関する検討会 (2020-)
公益財団法人 河川財団 河川財団研究アドバイザー (2013-)
公益財団法人 河川財団 戦略的維持管理委員会委員

学術論文の編集委員

Landscape and Ecological Engineering (Springer)
Geosciences
水工学論文集

国際シンポジウムの委員

SLJCR-2016 の International Advisory Committee
International Symposium on Ecohydraulics 2018 (ISE2018)の Local Organizing Committee (LOC)事務局長(2015-)
EMM-2020 の International Advisory Committee

博士論文の学外審査委員

塚本洋佑, ダム貯水池における洪水流動解析と洪水流入量・放流量の評価方法に関する研究, (中央大学, 主査: 福岡捷二教授)
吉見和紘, 確率過程論を導入した降雨流出過程における不確実性評価に関する研究, (中央大学, 主査: 山田正教授)
Agus Santoso, Aspect ratio variations in lower reach rivers focusing on sediment size distribution, (9/2017) (東京大学, 主査: 知花武佳准教授)
Hendra Ramdhani, The Impact of Interaction Between Sediment Size and Channel Aspect Ratio on River Planform Dynamics (河床材料の粒度と川幅水深比の相互作用が河道の平面形状の動態に及ぼす影響), (東京大学, 主査: 知花武佳 准教授)
Afzal Ahmed, Ecological System Based Flood Risk Assessment (6/2020), (パキスタン Taxila 大学, 主査: Abdul Razzaq Ghumman 教授)
諏訪義雄, 河川構造物と堤内地の洪水応答特性と減災への反映 (2/2021), (中央大学, 主査: 山田正教授)
見上哲章, 流域治水に活用するための実時間水面形予測法と本川・支川群を一体とした降雨流出・洪水流解析法に関する研究, (中央大学, 主査: 福岡捷二教授)

長田 昌彦

日本応用地質学会 会長 (2020.6~2024.6)
日本応用地質学会 地下水研究部会 委員 (2011.6~現在)
土木学会 岩盤力学委員会 委員兼幹事 (2009.6~)
土木学会 岩盤力学委員会 企画運営小委員会 幹事委員 (2009.6~)
土木学会関東支部 評議員 (2021.5~2023.5)
経済産業省 総合資源エネルギー調査会 臨時委員 (電力・ガス事業分科会 原子力小委員会地層処分 WG) (2022.11~)
経済産業省 関東東北産業保安監督部 関東東北地方鉱山保安協議会 委員 (2016.12~現在)
埼玉県 埼玉県の土砂災害対策に関する有識者委員会 委員長 (2018.11~現在)
埼玉県 地盤沈下対策調査専門委員会 委員 (2017.4~現在)
茨城県 地下水利用審査会 委員 (2016.1~2023.3)
栃木県 大谷石採取場跡地安全対策協議会及び観測システム委員会 (部会) 委員 (2022.8~2025.11)
鉄道総合技術研究所 研究開発レビュー リサーチアドバイザー (2019.4~現在)
全国地質調査業協会連合会 地質調査技士資格試験制度検定委員会 委員 (2017.1~2023.3)
全国地質調査業協会連合会 「JIS A 0206 工学地質図改正案作成委員会」委員 (2022.11~)
産業技術総合研究所 「廃棄物埋設における自然事象等の評価に関する研究事業」に関する検討委員会 委員 (2021.7~2023.3)
日本原子力研究開発機構 安全研究委員会 専門委員 (2021.6~2023.3)
原子力環境整備促進・資金管理センター評価委員会 委員 (2021.7~2023.3)

公益財団法人 深田地質研究所 理事 (2015.6～現在)
日本地下備蓄株式会社 地下石油備蓄保全技術検討委員会 委員 (2009.6～)
不連続性岩盤解析実用化研究会 長大斜面安定・対策検討委員会 (第 II 期) 委員長 (2011.6～)

内村 太郎

2018.2 ～ I G S 日本支部事務局、行事医院、編集委員、電子情報化委員
2018.4 ～ 国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所総合評価審査分科会 委員
2018.5 ～ 地盤工学会関東支部 埼玉県グループ 幹事
2018.9 ～ 埼玉県の土砂災害対策に関する有識者委員会 委員
2020.4.1 ～ 埼玉県環境影響評価技術審議会 委員
2020.4.1 ～ 東京大学地震研究所・京都大学防災研究所 拠点間連携共同研究委員会 委員
2020.4.1 ～ 京都大学防災研究所 自然災害研究協議会 委員
2021.4.1 ～ 特許庁工業所有権審議会試験委員
2021.12.11 埼玉大学連続市民講座 Part12 第 6 回 話題提供「モニタリングによる斜面崩壊検知」
2022.4.1 ～ 地盤品質判定士協議会 検定委員会 副委員長、試験委員

堤田 成政 (2022 年度より)

2019-2022, 日本生態学会企画委員会運営部会, 部員

2016-, 地理情報システム学会若手分科会

文理融合部門

久保田 尚

公益財団法人 都市計画協会 理事
公益財団法人 国際交通安全学会 理事
一般社団法人 交通工学研究会 理事
一般財団法人 自転車駐車場整備センター 理事
一般社団法人 日本自動車連盟 理事 (非常勤)
公益財団法人 東京都道路整備保全公社 評議員
公益財団法人 交通事故総合分析センター「事業用自動車事故調査委員会」委員
独立行政法人 都市再生機構 UR まちづくり支援専門家
独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員
一般社団法人 日本自動車連盟 交通安全・環境委員会委員
内閣府 中央交通安全対策会議専門委員
文部科学省 大学設置・学校法人審議会 (大学設置分科会) 専門委員
国土交通省 社会資本整備審議会臨時委員
国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所総合評価審査分科会委員
国土交通省関東地方整備局 埼玉県道路交通環境安全推進アドバイザー会議委員
国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所総合評価審査分科会委員
国土交通省関東地方整備局 関東道路メンテナンスセンター総合評価審査分科会委員
国土交通省国土技術政策総合研究所「国土技術政策総合研究所入札監視委員会及び国土技術政策総合研究所委託業務・工事成績評定審査委員会」委員
国土交通省国土技術政策総合研究所「国土技術政策総合研究所コンプライアンス・アドバイザー委員会」委員
さいたま市総合振興計画審議会委員
さいたま市都市交通戦略推進委員会委員長
さいたま市外部評価委員会委員長
さいたま市公共事業評価審議会委員長
さいたま市都市計画審議会会長
さいたま市「大宮グランドセントラルステーション推進会議」副委員長

所沢市都市計画審議会会長
越谷市地域公共交通協議会委員
上里町スマート IC 地区協議会委員
川島町地域公共交通協議会会長
上尾市地域公共交通活性化協議会委員
川越市交通政策審議会会長
熊谷市都市計画審議会委員
寄居町 寄居スマート IC 地区協議会委員
寄居町地域公共交通活性化協議会委員
越谷市都市計画審議会専門委員
戸田市都市計画審議会会長
戸田市移動等円滑化促進方針策定協議会委員長
春日部市中心市街地まちづくり審議会会長
春日部市地域公共交通活性化協議会委員長
朝霞市内地域公共交通協議会委員長
東京都都市計画審議会委員
東京都都市整備局
「東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針」の策定に向けた専門アドバイザー委員会委員
東京都北区都市計画審議会会長
東京都北区地域公共交通協議会委員長
鎌倉市交通計画検討委員会副委員長
鎌倉市交通計画検討委員会学識経験者委員
国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会委員
浜松市 浜松 21 世紀都市交通協議会会長
館林市都市計画基本方針等検討委員会 委員長
一般財団法人 運輸総合研究所「都市高速鉄道東京 8 号線整備検討調査委員会」委員
自動車安全運転センター「信号機のない横断歩道通過時の自動車の停止率及び減速状況等の実態に関する調査研究」委員会委員
東京大学大学院工学系研究科 博士学位請求論文審査委員会委員

小中 鉄雄

埼玉県彩の国基金 審査員, 2022.
ジャパンベトナムフェスティバル実行委員, 2022.
お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所客員教, 2022.

飯島 聰

JICA・JST 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)
・ベトナム 建設廃棄物の適正管理と建廃リサイクル資材を活用した環境浄化およびインフラ整備技術の開発事業 (日本側代表は理工学研究科川本先生) __。中間評価会議、在越日本大使館との会議、ジョイントセミナー等に参加 (コロナ禍のためいずれもオンライン会議)
JICA 草の根技術協力案件
・ミャンマー 森・里・川・湖をつなぐ豊かな地域づくり支援事業 (牧野植物園実施。埼玉大学からは理工学研究科藤野先生が参加) __ 同国の治安状況深刻化、コロナ禍の中で事業動向についてフォロー
JICA 有償資金協力・技術協力
・マレーシア日本国際工科院事業 (MJIT)
日本側の支援大学メンバーとして埼玉大学理工学研究科からは教員派遣、研究生・インターン生受入れ等を行ってきたが、2021 年は支援大学年次会合 (オンライン) 参加、事業フォローアップを行った
・インド工科大学ハイデラバード校事業 (IITH)
日本側の支援大学メンバーとして埼玉大学理工学研究科からは留学生受入れ (現地での留学生募集説明会開催を含む) 等を行ってきたが、2021 年は支援大学年次会合参加 (オンライン)、駐日インド公使埼玉大学来訪時の学長表敬対応、打ち合わせ参加等に関わった

日本アフリカ大学連携ネットワーク (JAAN)

日本側の支援大学ネットワーク・メンバーとして、年次会合に参加 (オンライン)、ネットワーク活動動向のフォローを行った

ユネスコスクール支援大学日本ネットワークのメンバー (オブザーバー・ステータス) として、年次会合に参加 (オンライン)、ネットワーク活動動向をフォローした

JICA 留学生招聘プログラム

人材育成奨学計画 (JDS) :

理工学研究科でミャンマー、ベトナム、ネパールから対象留学生を受入れ。また人文社会科学研究科でモンゴルから対象奨学生を受入れてきている。これら留学生の受け入れ、日本滞在中の一部ケアに関わった

アフガニスタン未来への懸け橋・中核人材育成プロジェクト (PEACE) :理工学研究科で対象留学生を受け入れ。これら留学生の受け入れ、日本滞在中の一部ケアに関わった (特に 2021 年 8 月のタリバーンによるカブール陥落以降)

アフリカの若者のための産業人材育成イニシアチブ (ABE イニシアチブ)、及び SDGs グローバル・リーダー・プログラム :理工学研究科がアフリカから対象留学生を受け入れ (ギニアビサウ)。これら留学生の受け入れ、日本滞在中の一部ケアに関わった

SDGs 関連活動

国連アカデミックインパクト (UNAI) 日本ネットワーク :メンバー大学として、年次活動報告書を作成、レジリエント社会研究センターの年間活動を含め、本学の SDGs、UNAI 基本目標に関連する活動を報告した

リコー・ジャパン社、さいたま市環境局、埼玉大学連携のさいたま市内小学校における SDGs 授業実践プログラム :埼玉大学から小学校の SDGs 授業を支援する学部生を派遣、また授業の立ち合いに関わった (当該年は指扇北小学校で開催)

地方自治体の国際交流関連活動支援

埼玉県横瀬町の活動支援 :横瀬町、及び JICA 東京からの依頼により、同町で行った同町居住外国人生活実態・課題に係る調査に対し、埼玉大学経済学部教員及び同教員指導学部生の派遣、並びに関連のワークショップ参加・立ち合いに関わった

埼玉県国際協力グローバルセミナー参加

JICA 外部有識者委員

SDGs ビジネス調査 (座長) :2011 年度から担当してきたが、2019 年度で終了

学会活動

国際開発学会 :春季大会 (文教大学)、全国大会 (金沢大学) にオンラインで参加

九州 EU 研究会 :福岡の西南学院大学に事務局を置く。大学関係者による EU の研究会。年 2 回の会合に参加 (新型コロナウイルス禍のため会合はオンラインで開催)

JICA・NGO 関連イベント

HAPIC (Happiness Idea Conference。国際協力 NGO センター主催セミナー) に参加 (オンライン)

加藤 哲平 (2021 年度のみ)

越谷市地域公共交通協議会委員 2021年度～

小嶋 文

平成 26 年 12 月～現在 さいたま市氷川参道歩行者専用化検討協議会 委員

平成 27 年 2 月～現在 入間市地域公共交通会議 副会長

平成 28 年 8 月～現在 国立市交通安全対策審議会 会長

平成 29 年 7 月～現在 国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会 委員

平成 29 年 11 月～令和 3 年 11 月 日本都市センター都市調査研究グランプリ審査会 委員
平成 29 年 11 月～現在 さいたま市環境影響評価技術審議会 委員
平成 30 年 7 月～現在 豊島区地域公共交通会議 委員
令和元年 2 月～現在 豊島区駐車場地域ルール関連委員会 委員
令和元年 5 月～現在 さいたま市さいたまはーと推進協議会 委員
令和元年 11 月～現在 埼玉県国土利用計画審議会 委員
令和元年 11 月～現在 東京都自動運転社会を見据えた都市づくりのあり方検討会 委員
令和 2 年 2 月～令和 3 年 新座市都市計画マスタープラン改訂委員会 委員
令和 2 年 5 月～現在 川口市都市計画審議会 委員
令和 2 年 8 月～令和 4 年 3 月 熊谷市都市計画マスタープラン・立地適正化計画策定委員会 委員
令和 2 年 8 月～現在 埼玉県大規模小売店舗立地審議会 委員
令和 2 年 9 月～現在 川崎市建設緑政局指定管理者選定評価委員会自転車対策部会 会長
令和 2 年 10 月～現在 埼玉県安全推進アドバイザー会議 委員
令和 2 年 10 月～令和 4 年 3 月 東村山市地域公共交通あり方検討会 委員
令和 2 年 10 月～現在 横浜市自転車等施策検討協議会 委員
令和 2 年 12 月～現在 さいたま市都市交通戦略推進委員会 会長
令和 2 年 12 月～現在 山梨県身延山門内活性化検討会 メンバー
令和 3 年 6 月～現在 国土交通省道路局企画競争有識者委員会 委員
令和 3 年 7 月～現在 東京都西新宿地区再整備方針検討委員会 委員
令和 3 年 7 月～令和 4 年 3 月 警察庁「様々な小型のモビリティの歩道及び路側帯走行と歩行者等との共存可能性に関する調査研究」委員会 委員
令和 3 年 9 月 さいたま市浦和駅周辺及び新都心ビジョンに係る有識者インタビュー
令和 3 年 10 月～令和 4 年 2 月 横浜市保有資産公募売却等事業予定者選定委員会 委員
令和 3 年 11 月～現在 さいたま市桜木駐車場用地活用事業者選定委員会 委員
令和 3 年 11 月～現在 静岡市次期みちづくり計画有識者検討会議 委員
令和 3 年 11 月～現在 国土交通省新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会 委員
令和 4 年 2 月～現在 朝霞市都市計画審議会、立地適正化計画に係る臨時委員
令和 4 年 7 月～現在 東京都市圏物流流動調査地区物流ワーキング 委員
令和 4 年 8 月～現在 さいたま市みその都市デザイン協議会エリア交通分科会 会長
令和 4 年 8 月～現在 千代田区エリアマネジメント推進ガイドライン検討会 委員
令和 4 年 9 月～現在 東京都大規模小売店舗立地審議会 委員
令和 4 年 10 月～現在 国土交通省まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会 委員

学会等における活動状況

平成 23 年 4 月～現在 交通工学研究会生活道路に関する検討小委員会
平成 29 年 11 月～現在 運輸総合研究所外国論文研究会 委員
平成 29 年 5 月～現在 交通工学研究会事業委員会 委員
平成 29 年 10 月～現在 Asian Transport Studies, Assistant Editor
令和 1 年 4 月～令和 4 年 3 月 日本都市計画学会学術委員会 委員
令和 2 年 4 月～現在 交通工学研究会第 2 学術委員会 幹事
令和 2 年 8 月～現在 日本都市計画学会研究交流事業小委員会 委員
令和 2 年 10 月～現在 交通工学研究会平面交差の計画と設計応用編改訂分科会
令和 3 年 9 月～現在 土木学会土木計画学研究委員会幹事会 幹事
令和 3 年 11 月～現在 交通工学研究会道路交通技術必携改定小委員会

2-4 受賞歴

インフラ強靱化部門

牧 剛史

(本人)

睦好宏史, 牧 剛史: 首都高速道路株式会社との共同研究「更新用プレキャスト壁高欄の開発」に係る首都高速道路改良工事への貢献, 埼玉大学令和3年度学長表彰・学長奨励賞(研究), 2021.11.

(指導学生)

吉田 祐太: 定着部が劣化したPC梁の力学的性状に関する研究, 土木学会全国大会第76回年次学術講演会・優秀講演者, 2021.9.

浅本 晋吾

(本人)

Journal of Advanced Concrete Technology, Outstanding Reviewers, 2021.

(指導学生)

三瓶時生君: 疎水性ポリマーを混合したモルタルの水分浸透と収縮特性に関する研究, 土木学会全国大会第76回年次学術講演会優秀講演者, 2021

党 紀

(指導学生)

Sanjeev Bhatta, Ji Dang: Post-Earthquake Multiclass Damage Detection of Reinforced Concrete Buildings Using Quantum Convolutional Neural Network, 2022年度日本地震工学会大会, Excellent Presentation Award, (<https://www.jacee.gr.jp/jp/2022/12/20/12811/>) 2022.

Sal Saad Al Deen Taher: Autonomous Multiple Damage Detection and Segmentation In Structures Using Mask R-CNN, 2021, Young Researcher Award, 9th International Conference on Experimental Vibration Analysis for Civil Engineering Structures (EVACES 2021) 2021.

防災・環境部門

堤田 成政 (2022年度より)

2022, CSIS Day 優秀共同研究発表賞, 東京大学空間情報科学研究センター

2-5 学生指導実績

インフラ強靱化部門

奥井 義昭

【博士前期】

Bhattarai Binod: Service Limit Strengths of Wide Stiffened Plates for Column-Like Buckling Modes and Their Variation Due to Flexural Rigidity of Stiffener, 2021.9.

Shams Muhammad Alamgeer: FEM analysis of a finger expansion joint for medium and small span bridges, 2022.3.

熊木和輝：非合成連続鉄桁橋のシステムリダンダンシーと既設橋の耐荷力評価のためのシステム係数の検討, 2022.3.

矢崎大地：高減衰後ゴム支承の自己発熱による剛性変化を考慮した地震 応答解析, 2022.3.

牧 剛史

【博士前期課程】

大久保 亮：PCa ブロックを組み合わせて構築する杭基礎フーチングの耐荷機構, 2023.3.

ピニラ クリストファー：新規 GFRP ロッドのコンクリート部材への適用に関する研究, 2023.3.

吉田 祐太：損傷を有する PC 梁の力学的性状と補修・補強工法の適用に関する研究, 2023.3.

Ray Sourav : Experimental Investigation on Pull-out Behaviour of Undercut Anchor for Precast Concrete Member, 2023.3.

Dinh Xuan Truong : Influence of Corrosion of Prestressed Tendon on Mechanical Behavior of Prestressed Concrete Beams, 2022.9.

須貝 祥真：液状化地盤中における RC ボックスカルバートの応答性状に関する研究, 2022.3.

山田 健太郎：高速道路更新用プレキャストコンクリート製壁高欄の開発 — 拡底アンカーの引抜耐力に関する研究 —, 2022.3.

Theint Han Sukyaw : Influence of Deteriorated Anchorages and Grouting Conditionson Mechanical Behavior of Prestressed Concrete Beams, 2021.9.

浅本 晋吾

【博士後期課程】

Joshi Nirmal Raj: Study on mechanical deterioration and structural response due to internal swelling reactions of concrete, Ph.D., 2021.9.

【博士前期課程】

Nguyen Thi Thanh Hoa: Experimental study on drying shrinkage behavior and influence parameters in Vietnam, 2023.3.

石毛 成：コンクリート乾燥収縮のデータマイニングと予測に関する検討, 2023.3.

小山 凜太郎：多孔質材の体積変化および水分浸透機構の検討, 2023.3.

三瓶 時生：ウレタンポリマーを混合したセメント硬化体の材料特性および収縮機構に関する検討, 2023.3.

氏家 彰都：高濃度塩分含有モルタルにおける鉄筋腐食の検討，2022.3.

志連 凌太：拡散方程式に基づいたセメント硬化体への水分浸透特性の検討，2022.3.

松本 歩：コンクリートの内部膨張反応が PC 梁の構造性能に与える影響に関する検討，2022.3.

Thiyagaraja Prasanthan: Numerical study on thermal cracking risk in mass concrete structures under hot weather condition, 2022.3.

覚 紀

【博士前期課程】

Al Deen Taher Sal Saad, Corrosion Mechanism Wise Instances Segmentation for Steel Bridges Using Detectron2 based Mask R-CNN, 2022.3

防災・環境部門

田中 規夫

【博士後期課程】

Abbas Fakhra Muhammad : Increase in Energy reduction of levee-overtopping flow by utilizing a water cushion on pooled water and generating small scale turbulences by geogrid at the levee toe (湛水によるウォータークッション効果とジオグリッドによる小規模乱流生成を利用した堤防越水流れのエネルギー減衰に関する研究) , 2022.9.

Amina : Investigating the flow properties around finite length coastal vegetation by varying the trunk part of a tree for tsunami/flood mitigation (津波減勢を目的とした有限幅海岸林の樹冠高の変化に応じた流れ特性の変化) , 2022.9.

Anjum Naveed : Study on the effects of discontinuous and vertically layered vegetation against tsunami inundations and river flow hydrodynamics (不連続かつ鉛直方向に層をなす植生が津波浸水や河川の水流通特性に与える影響に関する研究) , 2021.9.

Rahman Md.Abedur : Reduction of local scouring and tsunami energy by various types of landward vegetation behind a coastal embankment (堤防背後の様々なタイプの海岸林による津波エネルギーと局所洗掘の低減) , 2021.9.

【博士前期課程】

Rajapaksha Kumarasinhe Mudiyansele Samanthika Kumari : Assessment of the reservoir sedimentation in upstream reservoirs in the Arakawa watershed using Soil and Water Assessment Tool (SWAT) (SWAT モデルによる荒川流域上流貯水池の堆砂量の評価) , 2022.9.

Khaliq Muhammad Hamid : Levee-slope erosion under the water surface fluctuations of hydraulic jump generated by vegetation behind a levee (堤防背後の植生により形成された跳水の水面変動による堤防法面侵食) , 2023.3

高塚 智之：中川・綾瀬川流域の土地利用の変化に伴う河川分担・流域分担割合の変化, 2023.3.

岩城 亮平：芝川流域の降雨流出氾濫解析, 2023.3.

小野瀬 涼太：堤防越流時の落下流による堤体破壊メカニズムを考慮したジオグリッドによる侵食抑制方法, 2023.3.

Mosadiq Aqiq Ahmad : Experimental investigation on overtopping and inundation hydrodynamics around an open dike with riparian forest (河道内樹林が存在する霞堤周辺の越流と浸水特性に関する実験的研究) , 2021.9.

Md. Kamrul Hasan : Experimental study on the formation condition of nappe flow with the change in embankment downstream slope and the overflowing water characteristics (堤防の下流側法面勾配と堤防天端特性が落下流の形成条件に与える影響) , 2022.3.

岩田 敦行 : 河道内で生成された植物起源流下物の流動と樹林帯による補捉が洪水時の抵抗特性に与える影響, 2022.3.

海野瀬 綾乃 : 越水時における落下流特性に着目した河川堤防侵食破壊モデルの開発と現地適用, 2022.3.

長田 昌彦

【博士前期課程】

J.A. Sumith Karunathilaka Jayakody: Study on long-term subsidence and stability of rock slope debris, 2022.3.

Christina Putri Widyaningtyas: Experimental study on estimation of permeability of rocks from pore air pressure change, 2022.9.

大沢 光司 : 外気圧変化に対する岩石ブロック内の気圧応答を用いた浸透特性の推定, 2023.3.

内村 太郎

【博士後期課程】

Shah Syed Kamran Hussain : Influence of moisture content on permanent deformation and particle breakage of recycled concrete aggregates, 2021.9

【博士前期課程】

Betsy Nella Redinovia: Study on the Influence of Length and Diameter of Gravel Drain for Liquefaction Mitigation, 2021.3

磯岡一 : 模型内部振動を用いた飽和地盤の液状化・沈下・流動条件の考察, 2022.3

Hoque Nur Md Robiul: Characterization of water flow through a scaled model of unsaturated river dike based on image analysis, 2023.3

Fahimi Hekmatullah: Strength and deformation of cement mixed sandy soil reinforced by geogrid and short fiber, 2023.3

藤野 毅 (2021年度のみ)

【博士後期】

Lekkala Vamisi Krishina: Study on stress environmental response of riverbank plants for the purpose of applying water shed environmental management (水辺の環境管理への適用を目的とした河岸植物のストレス環境応答に関する研究), 2021.9. (論文提出)

【博士前期】 (環境システム工学系専攻・環境制御システムコース)

峯川和也 : ランダムフォレストモデルを用いたハノイ市における PM2.5 濃度時間変化の再現性の検討, 2022.3.

Zhang Shuai : 田島ヶ原サクラソウ自生地におけるコドラート株数調査による株数の変動傾向の再解析, 2022.3.

Luan Feng : サクラソウ群落の開花率の変化に及ぼす気候の影響, 2021.9.

Liu Zhaozhi: Morphological and physiological responses of freshwater macrophytes to exposure of microplastics, 2021.9.

久保田 尚

【博士論文】

Umme Ayesha: Evaluation of Bus Service Performance Based on Women Commuters in Developing Countries: A Case Study on Major Cities in Bangladesh, 2023.3.

Shah Syed Arif Hussain: A Study of Ride Hailing Services in Developing Countries: Case Study of Lahore, Pakistan, 2022.9.

RAHMAN ABDUR: Mechanism underlying bicycle conspicuity, visibility, and distance: A new insight into bicyclists safety, 2021.9.

【修士論文】

石川達也：自動運転車と普通自動車の混在流における確率的交通容量を考慮した均衡配分モデル, 2023.3.

柴田大雅：自動運転社会における路車間通信システムの効果に関するシミュレーション分析, 2023.3.

鷹箸勝成：駅前街路の歩行者空間創出に向けた通行者の意識に関する研究, 2023.3.

Peng Jiayuan：ITSによる新しい交通調査手法に関する研究—WCNに着目して, 2023.3.

Nyi Nyi Saw Hla: Study on the Influence of Street Humps over the Pedestrian and Residents, 2022.9.

大野 浩史：東京圏における郊外第2世代の住み替え動向と出身地への関与に関する研究, 2022.3.

大東 卓視：歩行者優先型道路の導入における交通ネットワーク評価に関する研究, 2022.3.

Wang Xiaoyu: A comparative study of micro-circulation bus operation model - Case study in China and Japanese cities, 2022.3.

小嶋 文 (2022年度より)

【修士論文】

佐々木 敦史：ハンプの面的対策地域における効果の多様性に関する研究, 2022.3.

Irin Mousumi: Study on Public Transport System for Sensitive Groups: A Case Study in Dhaka City Bangladesh, 2022.3.

Nabizada Mahdi: Assessment of effectiveness of different hump shapes in the car vibration using computer simulation, 2022.3.

3. 対外活動報告

3-1 市民のためのフォーラム

“彩の国”市民科学オープンフォーラムの開催

本研究センターでは、埼玉県在住の一般市民を対象として、フォーラムを実施している。このフォーラムは、防災などに関する知識や情報を広く市民の方に公開するための社会活動の一環として、国土交通省関東地方整備局、埼玉県、公益社団法人地盤工学会関東支部、公益社団法人日本技術士会埼玉県支部、一般社団法人埼玉県建設コンサルタント技術研修協会、埼玉県地質調査業協会、公益社団法人日本都市計画学会、一般社団法人日本応用地質学会のご後援をいただき、また、自然災害研究協議会関東地区部会のご協賛をいただいて年1回開催している。令和3年度はさいたま市、令和4年度においては行田市のご後援もいただいた。

【令和3年度】

日 時：令和3年12月11日（土）14:00～17:10

会 場：埼玉大学全学講義棟1号館3階

タイトル：災害につよいまちづくり

講 演：◆次なる災害に備える強靱な埼玉の構築 埼玉県 県土整備部長 北田 健夫
 ◆大都市郊外におけるコミュニティ防災の取り組み 東京都立大学 教授 市古 太郎

パネルディスカッション：「災害に対する備え」
 ◆モニタリングによる斜面崩壊検知 埼玉大学 教授 内村 太郎
 ◆高速道路橋の震災対策 NEXCO東日本 総合技術センター長 本間 淳史
 ◆災害時の情報提供 埼玉大学 教授 小室 孝

参加人数：官公庁防災関係者、民間企業、一般市民、埼玉大学教職員および学生

会場参加：97名、オンライン参加：67名



令和3年12月11日 土

14:00～17:10 (開場13:00)

会場 / 埼玉大学全学講義棟 1号館3階 (1,301講義室)

受講料無料 会場150名

お申し込み方法

ハガキ・申込フォーム (QRコードあり) の2種類の方法で受付いたします。いずれかの方法によりお申し込みください。

※電話による受付はいたしません。

※お申し込みにあたってお見せいただいた個人情報は本講座の運営のみ利用し、それ以外の目的には利用いたしません。

お問い合わせ先 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255

講義の内容に関して
 埼玉大学研究機構レクリエーション社会研究センター事務局
 TEL: 048-858-9572
 E-mail: info-irs@gr.saitama-u.ac.jp
 https://irs.saitama-u.ac.jp/

お申し込みに関して
 埼玉大学広報課外課 TEL 048-829-7672
 E-mail: koho@gr.saitama-u.ac.jp
 https://www.saitama-u.ac.jp/society/extension/

プログラム

14:00～14:10 開会の挨拶
 埼玉大学研究機構レクリエーション社会研究センター長 教授 奥井 義昭

14:10～15:40 講演
 「次なる災害に備える強靱な埼玉の構築」 埼玉県 県土整備部長 北田 健夫
 「大都市郊外におけるコミュニティ防災の取り組み」 東京都立大学 教授 市古 太郎

15:40～15:50 休憩

15:50～16:50 パネルディスカッション「災害に対する備え」
 「モニタリングによる斜面崩壊検知」 埼玉大学 教授 内村 太郎
 「高速道路橋の震災対策」 NEXCO東日本 総合技術センター長 本間 淳史
 「災害時の情報提供」 埼玉大学 教授 小室 孝

16:50～17:10 閉会の挨拶

※本行事は土不学舎認定のプログラムです。
 ※物理工学舎GFCの取組ではあり、皆さんのご了解ください。
 ※土不学舎以外のGFCに単位を登録する場合、変更したことがプログラムとして認められるかどうかは、各団体のルールに従ってください。

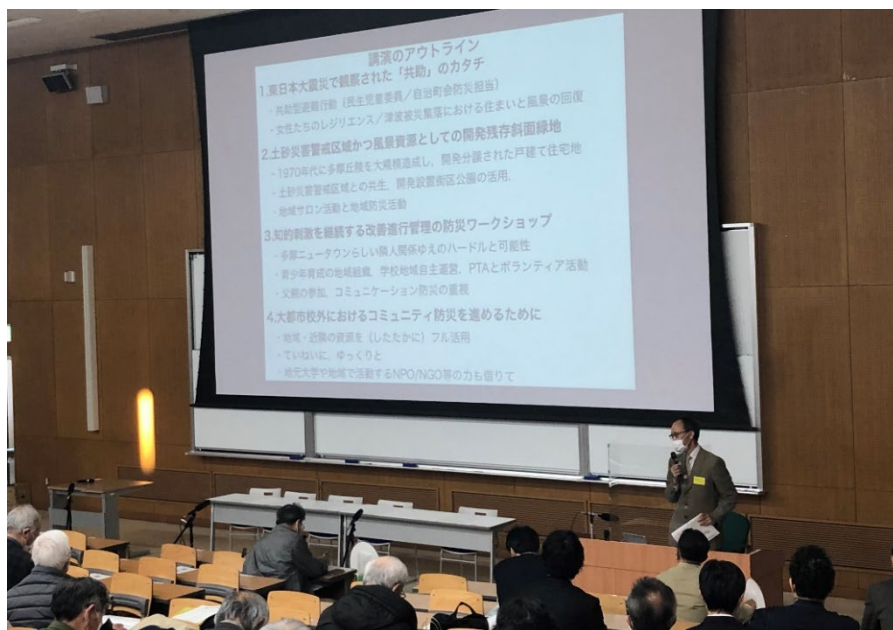
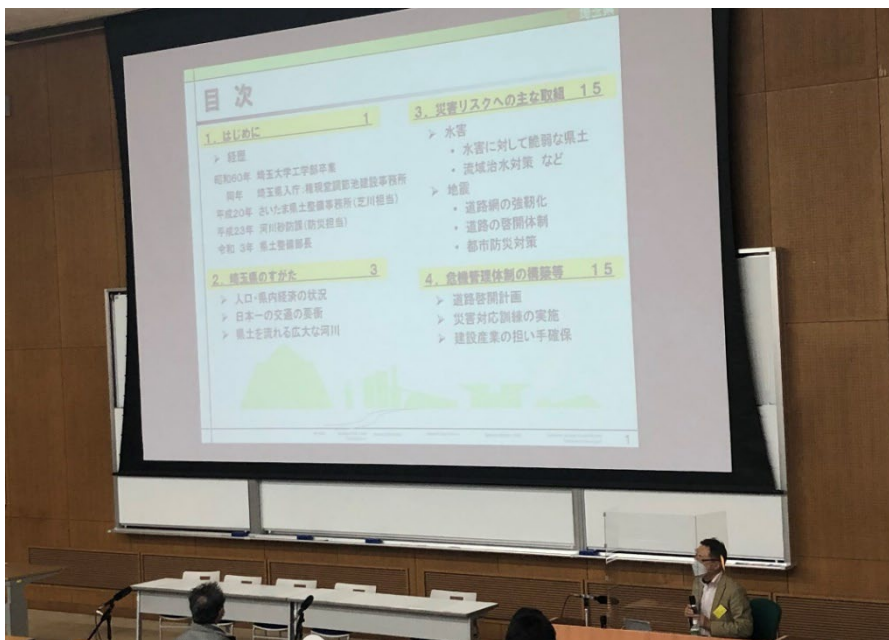
オンラインでの受講ができます!

受講料無料 事前申込不要 定員500名

インターネット接続環境があれば、ご自宅でも受講が可能です!
 ※オンライン受講をご希望の方は下記QRコード内にアクセスしてください。

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、日程や開催方法、会場等に変更が生じる場合がございます。予めご了承ください。大学ホームページをご確認ください。

フォーラムチラシ



フォーラム会場の様子



フォーラム会場の様子

【令和4年度】

日 時：令和4年11月5日（土）14:00～17:10

会 場：埼玉大学全学講義棟1号館3階

タイトル：災害につよいまちづくり

講 演：◆「流域治水」への転換について 国土交通省 関東地方整備局 河川部長 塩井 直彦
 ◆埼玉県の河川行政における最近の話題～埼玉版流域治水の実践～

埼玉県 県土整備部参事 兼 河川砂防課長 水草 浩一

パネルディスカッション：流域治水実践のための課題

国土交通省 関東地方整備局 河川部長 塩井 直彦
 埼玉県 県土整備部参事 兼 河川砂防課長 水草 浩一
 行田市 環境経済部長 江森 裕一

参加人数：官公庁防災関係者、民間企業、一般市民、埼玉大学教職員および学生

会場参加：119名、オンライン参加：57名

埼玉大学 / 読売新聞さいたま支局 共催
埼玉大学連続市民講座
 危機の時代Ⅱ -しなやかな社会を目指して-

part 13

第6回“彩の国”市民科学オープンフォーラム
災害につよいまちづくり

日時 令和4年11月5日(土) 14:00～17:10 (開場13:00) 会場 埼玉大学全学講義棟1号館3階(1301講義室)
 受講料無料 定員200名 オンライン配信実施

14:00～14:10 開会の挨拶 埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター 教授 田中 規夫
 14:10～15:40 講演 「流域治水」への転換について 国土交通省 関東地方整備局 河川部長 塩井 直彦
 埼玉県の河川行政における最近の話題～埼玉版流域治水の実践～ 埼玉県 県土整備部参事 兼 河川砂防課長 水草 浩一
 15:40～15:50 休憩
 15:50～16:50 パネルディスカッション 流域治水実践のための課題
 国土交通省 関東地方整備局 河川部長 塩井 直彦
 埼玉県 県土整備部参事 兼 河川砂防課長 水草 浩一
 行田市 環境経済部長 江森 裕一
 埼玉大学研究機構 レジリエント社会研究センター 教授 田中 規夫
 16:50～17:10 閉会の挨拶

お問い合わせ 埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター事務局
 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255 Tel: 048-858-9572
<http://lirs.saitama-u.ac.jp/> E-mail: info-lirs@gr.saitama-u.ac.jp

主催：埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター
 協賛：自然災害研究協議会関東地区分会
 協理：国土交通省関東地方整備局 / 埼玉県 / 行田市 / 公益社団法人 地盤工学会関東支部 / 公益社団法人 日本技術士会埼玉支部 / 一般社団法人 埼玉県建設コンサルタント技術研修協会 / 埼玉県地質調査業協会 / 公益社団法人 日本都市計画法学会 / 一般社団法人 日本応用地質学会

フォーラムチラシ



フォーラム会場の様子



パネルディスカッションの様子

流域治水「待ったなし」 実践に向け課題議論

大里 圭二

豪雨による災害が発生し、流域治水の推進は待ったなしの状況になっている。流域のバランスを取りながら施策を進めるため、リスクコミュニケーションも重要になる」とあいさつした。写真。

パネルディスカッションに参加した塩井河川部長は、複数箇所で開催する流域治水プロジェクトに言及し、「河川ごとに違いがあり、上下流・左右岸でも異なる。特性にあわせた対策をどのように進めていくかがポイントになる」と指摘した。「好事例をまとめ、他の地域に広げたい」と今後の展望も語った。

水草河川砂防課長は「流域治水は受益者と実行者が一致

しない取り組みが多くあるため、皆さんが納得の上でどう施策を進めていくかが重要になる」と話した。その上で、県がモデル事業に位置付ける忍川（行田市）の埼玉版流域治水プロジェクトを通じて「思う仕組みをつくりたい」と意気込みを語った。

生かす考えを示した。行田市の江森裕一環境経済部長は、今年度から田んぼ夕ム事業に着手したことを紹介し、「インセンティブなどを考え、取り組みで良かったところを表彰し、今後の施策に語った。

日刊建設通信新聞 掲載記事

3-2 その他の対外活動

3-2-1 埼玉橋梁メンテナンス研究会

概要

1. 目的

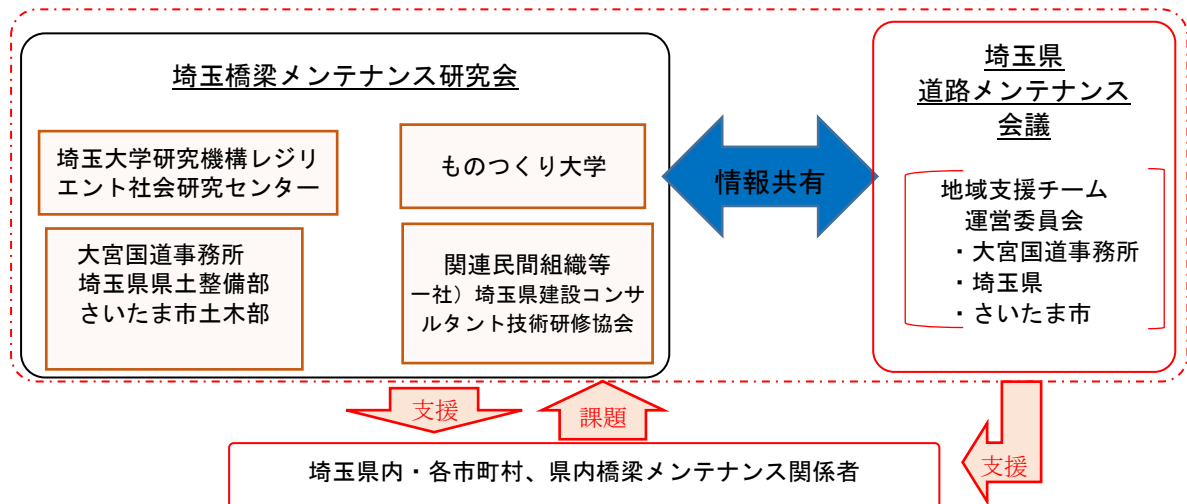
橋梁メンテナンス研究会は埼玉県内の基幹インフラ施設である道路橋の維持管理・補修の現状及び今後について広く意見を収集するとともに、その保全施策や保全技術に対して検討・研究を行うことにより、県内橋梁の維持管理の効率化に貢献していくことを目的としている。

2. 活動方針

- 1)埼玉大学レジリエント社会研究センターの活動の一環として、学・官・産の研究活動とする。
- 2)事務局は埼玉県建設コンサルタント技術研修協会が行うものとする。

3. 組織・構成

本研究会は、埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センターに設置し、大学教員、道路管理者、橋梁等設計・施工に携わる技術者などの参画を得て、幅広く意見を収集し、橋梁メンテナンスに関わる技術者の養成、効果的な技術使用のための各種検討・研究を行う。



研究会と道路メンテナンス会議は、情報共有、課題抽出、技術提案等で連携する。

- 埼玉大学研究機構 レジリエント社会研究センター 埼玉橋梁メンテナンス研究会
- ものづくり大学
- 国土交通省大宮国道事務所、埼玉県県土整備部、さいたま市土木部
- (一社) 埼玉県建設コンサルタント技術研修協会(さいたま橋梁メンテナンス検討会)

令和4年度 埼玉橋梁メンテナンス研究会構成員

所 属	氏 名	
埼玉大学研究機構 レジリエント社会研究センター	睦好 宏史 名誉教授・客員教授	
	奥井 義昭 教授	
	牧 剛史 教授	
	浅本 晋吾 准教授	
	党 紀 准教授	
埼玉大学大学院理工学研究科	松本 泰尚 教授	
ものづくり大学	大垣 賀津雄教授	
	澤本 武博 教授	
	荒巻 卓実 助教	
大宮国道事務所	阿部 俊彦 所長	
	山崎 裕樹 総括保全対策官※	
	一場 英夫 保全対策官	
埼玉県県土整備部	石川 潤 県土整備政策課政策担当主査	
	左雨 奈緒子道路街路課橋梁担当主査	
	関根 良 道路環境課防災担当主査	
さいたま市土木部道路環境課※	横地一久 道路環境課補佐	
	杉本 寛樹 道路環境課主査	
	今野孝信 道路環境課技師	
一社) 埼玉県建設コンサルタント技術 研修協会(さいたま橋梁メンテナンス検 討会)	安田 陽一 会長	伊藤 大輔 委員
	前橋 剛 委員	佐藤 裕之 委員
	八幡 敏正 委員	石原 正人委員
	大堀 郁夫 委員	鈴木 英明 委員
	五十君 忠明委員	小山 一裕 理事
	成田 忠則 委員	
顧 問	岩崎 康夫 埼玉大学客員教授 (元埼玉県副知事)	

ワーキンググループについて

(1) ワーキングⅠ 技術者養成

- 1)目的：県内の橋梁技術者を育成
- 2)対象：自治体橋梁点検・補修担当者及び県内の橋梁補修技術者

(2) ワーキングⅡ 補修・更新の考え方

- 1)目的：補修・更新の基本的な考え方資料（留意事項）の作成
- 2)対象：県内補修対象橋梁

(3) ワーキングⅢ 点検手法と成果

- 1)目的：新点検手法や成果様式を検討し、点検業務の信頼性や効率化の向上を図る
- 2)対象：県内点検対象橋梁

4. 活動と経緯

(1) 埼玉県橋梁点検研修会を企画、講師派遣

主催：埼玉県

日時：平成30年(2018)9月5日(水)

場所：埼玉教育会館

(2) さいたま市加入

第5回研究会 平成30年(2018)11月13日

さいたま市建設部道路建設課横地一久課長補佐、畑崇憲主任が本研究会に加入

(3) 橋梁メンテナンス技術研修会【第1回】開催

日時：平成30年(2018)11月29日(木) 13:00~17:00

場所：全電通あけぼのビル 501号室

(4) 平成30年度 埼玉県道路メンテナンス会議 技術講習会(橋梁・補修補強工事)

主催：埼玉県道路メンテナンス会議 7名参加

平成31年(2019)1月29日 13:00~16:00

場所：さいたま市桜区役所 会議室(座学)

国道463号 羽根倉橋・上り線(現場視察研修)

(埼玉県さいたま市桜区下大久保地先~埼玉県志木市宗岡地先間)

(5) 橋梁メンテナンス技術研修会【第2回】開催

日時：令和元年(2019)6月11日(火)

場所：埼玉県庁第三庁舎4F講堂

(6) ふくしま ME 制度について講習

日本大学工学部岩城一郎教授の講演

令和元年(2019)6月5日、於埼玉大学、睦好代表他7名出席

(7) ふくしま ME 制度について調査

令和元年(2019)6月13日、福島県建設業協会鈴木武男専務理事、斎藤祐一参事、福島県土木部中村一彦主幹、当研究会から安田、小山参加

(8) ものづくり大学加入

令和元年度第2回研究会 令和元年(2019)8月1日

ものづくり大学 大垣賀津雄教授、澤本武博教授 及び、

さいたま市道路環境課 高原 亮技師が本研究会に加入

- (9) NEXCO 五明橋実習所、高崎テクニカル・トレーニングセンター見学
令和元年(2019)11月22日、参加者：大宮国道事務所田中倫英所長、中山雄一保全対策官、埼玉県度整備事務所村山浩之主査、(一社)埼玉県建設コンサルタント技術研修協会安田陽一会長、佐藤裕之理事、小山一裕理事、八幡敏正委員
- (10) 橋梁メンテナンス技術研修会【第3回】開催
日時：令和元年(2019)11月21日(火)
場所：さいたま共済会館 602 会議室
- (11) 令和元年度 埼玉県道路メンテナンス会議・地域支援チームに参加
橋梁の遠隔診断支援+新技術活用WGへ参加
主催：埼玉県道路メンテナンス会議
日時：令和2年(2020)2月6日 13:00~15:20
場所：会場：大宮国道事務所
- (12) 埼玉橋梁メンテナンス研究会(令和2年度第1回全体会議)
日時：令和2年(2020)9月15日(火) 15:00~17:00
場所：全電通埼玉会館 あけぼのビル 501号会議室
- (13) 埼玉橋梁メンテナンス研究会(令和2年度第2回全体会議)
日時：令和3年(2021)1月12日(火) 15:00~16:30
場所：Zoomによるネット会議
- (14) 埼玉橋梁メンテナンス研究会活動報告書 2018~2020 公開
日時：令和3年(2021)3月
- (15) 埼玉橋梁メンテナンス研究会(令和3年度第1回全体会議)
日時：令和3年(2021)6月3日(木) 10:00~12:00
場所：Zoomによるネット会議
- (16) 橋梁メンテナンス技術研修会【構造実験と非破壊検査】
日時：令和3年(2021)6月11日 13:00~16:20
場所：ものづくり大学 本部棟 3階
- (17) 橋梁メンテナンス技術研修会(遠隔)【構造実験と非破壊検査】
日時：令和3年(2021)7月12日 13:00~16:20
場所：WEB配信

(18) 入間川高架橋補強工事見学会

日時：令和3年(2021)9月16日 13:30～15:00

参加者：大宮国道事務所 小助川裕樹、新聞友祐、埼玉県県土整備政策課 石川潤、
飯能市道路公園課 高橋大基、東條立一郎、青木孝之、埼玉大学 睦好宏史、
松本泰尚、埼玉県建設コンサルタント技術研修協会 安田陽一、伊藤大輔、
前橋剛、小山一裕、八幡敏正、石原正人、吾妻仁、宮下侑希

(19) 埼玉橋梁メンテナンス研究会 (令和3年度第2回全体会議)

日時：令和3年(2021)12月1日(木) 10:00～12:00

場所：Zoomによるネット会議

(20) 橋梁メンテナンス技術研修会【第2回】開催

日時：令和4年(2022)1月25日(火) 13:30～16:30

場所：埼玉会館7A会議室

(21) 埼玉橋梁メンテナンス研究会 (令和3年度第3回全体会議)

日時：令和4年(2022)3月28日(月) 10:00～12:00

場所：Zoomによるネット会議

(22) 橋梁メンテナンス技術研修会【第1回】開催

日時：令和4年(2022)5月24日(火) 13:30～16:30

場所：埼玉会館2階ラウンジ

(23) 埼玉橋梁メンテナンス研究会 (令和4年度第1回全体会議)

日時：令和4年(2022)6月7日(火) 10:00～12:00

場所：Zoomによるネット会議

(24) 埼玉橋梁メンテナンス技術研修会【PC梁の軸力導入の見学会】

日時：令和4年(2022)6月8日(水) 10:00～11:30

場所：ものづくり大学 中央棟2階

(25) 橋梁メンテナンス技術研修会【第2回】開催

日時：令和4年(2022)8月2日(火) 13:00～17:00

場所：ものづくり大学 中央棟1階

(26) 埼玉橋梁メンテナンス研究会 (令和4年度第2回全体会議)

日時：令和4年(2022)8月9日(火) 10:00～12:00

場所：Zoomによるネット会議

- (27) 令和4年度橋梁メンテナンス現場見学会
日時：令和4年(2022)10月17日(月)13:30～15:00
場所：旧秩父橋
- (28) 橋梁メンテナンス技術研修会【第3回】開催
日時：令和4年(2022)11月8日(火)13:00～16:50
場所：埼玉会館2階ラウンジ
- (29) 埼玉橋梁メンテナンス研究会(令和4年度第3回全体会議)
日時：令和4年(2022)11月22日(火)10:00～12:00
場所：Zoomによるネット会議
- (30) 埼玉橋梁メンテナンス研究会(令和4年度第4回全体会議)
日時：令和5年(2023)3月7日(火)10:00～12:00
場所：Zoomによるネット会議

資料

2021年5月31日

関係各位

埼玉橋梁メンテナンス研究会

埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター
ものづくり大学
国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所
埼玉県県土整備部
一般社団法人 埼玉県建設コンサルタント技術研修協会

橋梁メンテナンス技術研修会 録画撮影、載荷実験のご案内

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

埼玉橋梁メンテナンス研究会では、橋梁の点検、補修等の維持管理に携わる県内の自治体職員及び民間の技術者や橋梁の維持管理に興味がある学生を対象とし、橋梁補修に関わる研修会を企画いたしました。本研究会による研修は一昨年3回行いました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため開催できませんでしたが、今年度は遠隔開催とさせていただきます。

つきましては、以下の通り、RC床版の載荷実験及び非破壊検査の講義・実習の録画撮影と載荷実験を行いますので、ご参集ください。

記

- 1 名 称 橋梁メンテナンス技術研修会【構造実験と非破壊検査】
- 2 共 催 埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター
ものづくり大学
埼玉県県土整備部
一般社団法人 埼玉県建設コンサルタント技術研修協会
- 協 力 埼玉県道路メンテナンス会議
※本研修会は、共催者及び協力者で構成する「埼玉橋梁メンテナンス研究会」の事業として実施しております。
- 3 日 時 2021年6月11日（金）13:00～16:20
- 4 場 所 ものづくり大学 本部棟3階（受付）A3010 大講義室
- 5 定 員 約15名（研修協会関係者限定）

橋梁メンテナンス技術研修会【載荷実験と非破壊検査】

【研修会プログラム】

2021年6月11日（金）13:00～16:20

時 間	プログラム	講 師
13:00～13:10 (10分)	1. 研修趣旨	埼玉県橋梁メンテナンス研究会代表 埼玉大学 研究機構レジリエント社会研究センター 名誉教授 陸好宏史
13:10～13:20 (10分)	2. 研修設備について	ものづくり大学 学長 赤松 明
13:20～13:30 (10分)	質疑応答	
13:30～13:45 (15分)	3. 非破壊検査（コンクリート）について	ものづくり大学教授 澤本武博
13:45～13:55 (10分)	4. 非破壊検査（鋼構造）について	ものづくり大学助教 荒巻卓見
13:55～14:10 (15分)	5. 床版の破壊形体と補修について	ものづくり大学教授 大垣賀津雄
14:10～14:30 (20分)	質疑応答・移動	
14:30～15:00 (30分)	6. 非破壊検査：中性化試験，反発度試験，鉄筋探査（コンクリート系）	ものづくり大学 教員，非常勤講師，研究室学生
15:00～15:20 (20分)	7. 非破壊検査：渦流探傷試験，超音波探傷試験（鋼構造系）	ものづくり大学 教員，研究室学生 （協力：日本工業試験所）
15:20～16:00 (40分)	8. 載荷実験等見学：RC床版の載荷実験	ものづくり大学 教員，研究室学生
16:00～16:10 (10分)	移動・質疑応答	
16:10～16:20 (10分)	9. 閉会挨拶	埼玉県建設コンサルタント技術研修協会 会長 安田陽一



ものづくり大学
INSTITUTE OF TECHNOLOGISTS

〒361-0038

埼玉県行田市前谷 333 番地

TEL：048-564-3200（代表）

ものづくり大学 案内図



1. 非破壊検査について

(1) コンクリート



中性化試験



反発度試験



鉄筋探査



透気試験

(2) 鋼構造



渦流探傷試験



超音波探傷試験

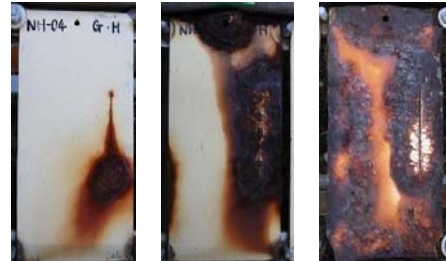
協力：日本工業試験所

2. 载荷実験等見学等について

(1) 劣化構造物



腐食劣化した鋼桁



暴露試験片



劣化したRC床版

(2) RC床版の载荷実験

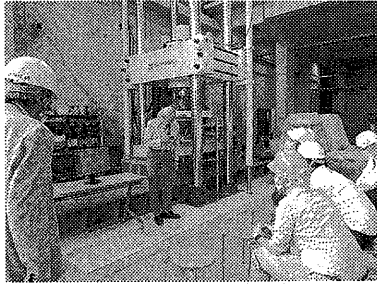


2021年(令和3年)

6月15日

火曜日

P.5



R C床版載荷実験

梁橋研
 テメ
 研

研修をウェブ配信

3テーマで12日から

埼玉橋梁メンテナンス研究会は、「橋梁メンテナンス技術研修会」を7月12日からウェブ配信する。CPD(継続能力開発)5単位の認定プロ

グラムとなる。配信に先立ち11日、ものつくり大学の研修設備を利用し、RC床版の載荷実験と非破壊検査(コンクリート、鋼構造)について講義・実習を録画した。実験には協会関係者らが参加し、活発な質疑を交わした。実習は、▽コンクリート系非破壊検査(中性化試験、反発度試験、鉄筋探査)▽鋼構造系非破壊検査(渦流探傷試験、超音波探傷試験)▽床版の破壊形態と補修(RC床版の載荷実験)——の3テーマ

で実施した。

埼玉橋梁メンテナンス研究会は、埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター、ものつくり大学、県土整備部、埼玉県建設コンサルタント技術研修協会が共催し、埼玉県道路メンテナンス会議が協力している。産学官の情報共有や技術者育成の場として、2018年度に設立した。研修会は19年度に3回座学形式で開いたが、20年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催を見送った。動画は7月12日から16日まで視聴できる。申し込みは研究会事務局の埼玉県建設コンサルタント技術研修協会へ受け付ける。

2022年4月吉日

関係各位

埼玉橋梁メンテナンス研究会

埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター

ものづくり大学

国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所

埼玉県県土整備部

一般社団法人 埼玉県建設コンサルタント技術研修協会

橋梁メンテナンス技術研修会【令和4年度第1回】の開催のご案内

(土木学会CPDプログラム認定2.2単位・WEB1.1単位)

埼玉橋梁メンテナンス研究会は、橋梁の点検、補修等の維持管理に携わる県内の自治体職員及び民間の技術者や橋梁の維持管理に興味がある学生を対象とし、以下の研修会を開催します。ご案内申し上げます。

記

1. 名 称：橋梁メンテナンス技術研修会【令和4年度第1回】
2. 共 催：埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター
大宮国道事務所
埼玉県県土整備部
一般社団法人 埼玉県建設コンサルタント技術研修協会
※本研修会は、共催者で構成する「埼玉橋梁メンテナンス研究会」の事業として実施しております。
3. 日 時：2022年5月24日（火）13:30～16:30
4. 場 所：埼玉会館 2F ラウンジ（さいたま市浦和区高砂 3-1-4、[Tel:048-829-2471](tel:048-829-2471))
5. 受講料：無 料
6. 定 員：50名（定員になり次第締め切ります。コロナウィルス蔓延防止のため、座席の間隔を空けて座って頂きます。）
7. WEB配信：定員締切のため参加できない方に対して後日WEB配信を行う予定です。
8. CPDポイント：土木学会CPDプログラム認定（2.2単位）、なお、WEB受講者は1.1単位（予定）
9. 対 象 者：埼玉県内の橋梁に関する業務経験がある自治体職員及び民間技術者。橋梁に興味がある大学生。

10. 申し込み：埼玉橋梁メンテナンス研究会事務局（埼玉県建設コンサルタント技術研修協会：<https://www.saikonkyo.org/>）へお申し込みください（定員になり次第締切ります。）。

【研修会プログラム】

時 間	題 目	講 師
13：30～13：40（10分）	開会挨拶	埼玉橋梁メンテナンス研究会代表 埼玉大学客員教授 睦好 宏史
13：40～13：50（10分）	埼玉県道路メンテナンス会議の 取組	国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所 所長 阿部 俊彦
13：50～14：40（50分）	橋梁更新の着眼点 橋梁点検、診断	埼玉橋梁メンテナンス研究会 WG 2 五十君 忠明 WG 3 鈴木 英明
14：40～14：50（10分）	休憩	
14：50～15：50（60分）	道路橋のメンテナンスに関する 諸課題と対応策	国土交通省 国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部長 福田 敬大
15：50～16：20（30分）	埼玉県の橋りょう保全の取組	埼玉県県土整備部 県土整備部長 北田 健夫
16：20～16：30（10分）	閉会挨拶	埼玉県建設コンサルタント技術研修協会 会長 安田 陽一

11. 会場案内

JR浦和駅（西口）下車 徒歩6分

駐車台数に限りがございますのでご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



ドローン実証を報告

埼玉橋梁メンテ研

産官学で構成する埼玉橋梁メンテナンス研究会は、さいたま市の埼玉会館で2022年度第1回研修会を開いた。自治体や民間企業から約50人が受講した。橋梁点検・補修などの維持管理に携わる県内



の自治体職員や民間技術者、橋梁維持管理に関心を持つ学生を対象に企画した。

研究会代表の睦好宏史埼玉大客員教授は「対面では3年ぶりの開催となった。埼玉県内市町村のメンテナンス関係者を支援していきたい」とあいさつした。写真。

当日は、関東地方整備局大宮国道事務所の阿部俊彦所長が埼玉県道路メンテナンス会議の施策を紹介したほか、国土技術政策総合研究所の福田敬大道路構造物研究部長が橋梁長寿命化の現状・問題点や今後の方針を解説した。

研究会が進めてきたドローンによる点検実証実験の結果も報告した。ドローンは、狭い部の撮影が困難な一方で、全景写真は俯瞰的で分かりやすいことが判明。実験担当者は「踏査時に使用すれば、重点箇所を確認することができる」と説明した。

18年度に設立した研究会は、埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター、ものつくり大学、関東地方整備局大宮国道事務所、埼玉県国土整備部、埼玉県建設コンサルタント技術研修協会などで構成する。

建設通信新聞 令和4年5月30日

令和2年4月

建設通信新聞「特集・緊急提言」に田中教授の取材記事が掲載されました

建設通信新聞「特集・緊急提言【コロナ禍における防災・減災、強靱化/加速化する一命と暮らしを守る諸施策】」に、田中教授の取材記事「ピーク付近は遊水池整備が有効」が掲載されました。(2021年4月28日)

(1) 第2部 2021年(令和3年)4月28日(水曜日) 特集 防災 3頁 イ画 実行 1頁

緊急提言 コロナ禍における防災・減災、強靱化

加速化する一命と暮らしを守る諸施策

政府は昨年7月、2021年度から25年度を計画年度とする「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を策定し、重点的に施策展開する方針を打ち出した。国土強靱化基本計画に基づく15の重点化すべきプログラム推進を基本としつつ、「激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策」などについて、取り組みをさらに加速化・深化していく考えだ。新型コロナウイルス感染症拡大が不可

止まらないまま、大災害が発生した場合などに対応し医療と一体となった感染防止対策(1)に充実させるかも、重要な課題となっている。医療と防災の連携を図り、いかに国民の命と暮らしを守るのか。専断実証日本総合研究所会長を始めとする有識者からの提言を掲載するとともに、各地域を支えるプロジェクトを紹介する。

専断実証日本総合研究所 会長 大川 秀雄氏



コロナ禍などを踏まえ防災・減災対策の高量化、多地域化が進められている。写真は「医療・防災」の観点から普及が見込まれる高規格コンテナを活用した「発熱検査」センター

CONTENTS

② 総合エンジニアリングで新産業創出 一般財団法人日本総合研究所会長	守島 実郎氏	⑤ 強靱化の必要性が当然の国家運営を 新潟工科大学学長	大川 秀雄氏
③ 国土交通省における「防災・減災、国土強靱化の ための5か年加速化対策」のポイント 国土交通省総合政策局長	石田 儀氏	⑥ 地域安全・安心に「事前の備え」を 多治見市長	古川 雅典氏
④ 北海道農林庁の5か年対策対応に直結 北海道大学公共政策大学院教授	藤 幹造氏	⑦ 減災への確切的な適応策が急務 京都大学防災研究所所長	中北 英一氏
⑤ 「激甚化」の予測精度向上は未知の領域 山形大学災害環境科学研究所所長	本山 功氏	⑧ 水害の対策は「技術」と「人間の気持」 高知工科大学統合減災マネジメント研究室室長	佐藤 慎司氏
⑥ ピーク付近は遊水池整備が有効 埼玉大学工学部建築学系教授	田中 穂夫氏	⑨ 強靱化と地域復興に山陰道整備は重要 福山市立大学都市経営学部教授	坂澤 一成氏
⑦ 講習会などで定期的に防災機運醸成 常陸大宮市長	鈴木 定平氏	⑩ 道路閉鎖、住まい再建に尽力 熊本県土木部長	村上 義幸氏
⑧ 地元建設業の大切さを実感 神奈川風鈴機研社長	駒場 浩行氏	⑪ 自衛隊外典行実地へ制度設計進む 社会の役割増すTEC-FORCE	

地域を支えるプロジェクト

■ 都心コアアクセス道路	■ 熊本市・東区地区相模川右岸治水対策整備事業	■ 三重功徳
■ 北北東1地区第一種市街地再開発事業	■ 彦子市・柳井川治水対策	■ 福智町町制50周年
■ 山形県西田地区雨水処理施設整備	■ 徳島川水害緊急治水対策	■ N.E.C.O.中国・広島県道路4車線化
■ 豊上川水害流域治水プロジェクト	■ 明日風雨対策	■ 広島県東広島市・広島県道5号線
■ 豊川(藤二)三脚部地	■ 庄内川(庄内治水協議会)	■ 福岡県「緊急対策プロジェクト」
■ 豊野ダム	■ 秋田県橋次郎事業	■ 福岡県福岡市中央区天神地区・八幡地区
■ 一宮川既設治水プロジェクト	■ 大河川ダム整備	
■ 久慈川・野洲川流域治水プロジェクト	■ 奈良県の大規模広域防災拠点整備	

◆建設通信新聞「特集・緊急提言

【コロナ禍における防災・減災、強靱化/加速化する一命と暮らしを守る諸施策】(2021年4月28日)



2017年10月の関東豪雨は日本列島の過去最大規模を誇る。関東圏は日本列島の経済・人口の中心地であり、その被害は甚大に達した。国土交通省は、国土交通省関東地方整備局(以下「整備局」と呼ぶ)が、国土交通省関東地方整備局の川口川南川(以下「南川」と呼ぶ)の治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。治水対策は、南川の治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。治水対策は、南川の治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。

ピーク付近は遊水池整備が有効



住まい方と土地利用をセットに

治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。治水対策は、南川の治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。

洪水調節容量5100万立方メートル

国土交通省関東地方整備局は、荒川流域の治水安全確保を目的として、荒川(以下「荒川」と呼ぶ)の治水対策として、荒川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。治水対策は、荒川の治水対策として、荒川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。



治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。治水対策は、南川の治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。

国内初のCFRDを採用

1969年の東部関東豪雨をきっかけに、治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。治水対策は、南川の治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。



治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。治水対策は、南川の治水対策として、南川治水対策(以下「治水対策」と呼ぶ)を実施している。

◆田中教授の取材記事「ピーク付近は遊水池整備が有効」(2021年4月28日)

【テレビ放映】「橋梁メンテナンス技術研修会」の様子が放映されました
 行田ケーブルテレビにて「橋梁メンテナンス技術研修会」の様子が放映されました。

番組名	「浮き城かわら版」
放送日時	6月14日(月)18:00~6月18日(金)12:30 【浮き城かわら版放送時間】 6:00/6:30/9:00/9:30/12:00/12:30/ 18:00/18:30/22:00/22:30
内容	6/11にものつくり大学で開催されました埼玉橋梁メンテナンス研究会の「橋梁メンテナンス技術研修会【構造実験と非破壊検査】」の様様

3-3 国際的活動

- ・ 中国科学院 成都山地災害与環境研究所 との斜面防災の共同研究
期 間：2008 年－継続中
- ・ コロンボ大学（スリランカ）主催のウェビナーにて講演
日 時：2022 年 2 月 2 日 10:00~11:30
場 所：コロンボ大学技術学部
講演題目：World Wetlands Day 2022 | Conservation of Endangered Species in Wetlands
講 演 者：藤野 毅
<https://cmb.ac.lk/event/webinar-on-conservation-of-endangered-species-in-wetlands>
- ・ JSPS 二国間交流（共同研究） 中国 大連理工大学
期 間：2021 年 4 月 1 日－2024 年 3 月 31 日（延長後）
課題名：光ファイバーによる橋梁腐食モニタリングのための自動認識 AI の開発
日本側代表者：党紀 埼玉大学 准教授
相手国側代表者：Tang Fujian, 大連理工大学 教授
- ・ JSPS 外国人招へい研究者（アメリカ）
期 間：2022 年 6 月 18 日－2022 年 8 月 15 日（延長後）
課題名：UAV に基づいた BIM 対応の最適経路設計による認知的(AI)構造検査
受入研究者：党紀 埼玉大学 准教授
外国人招へい研究者：Chen Zhiqiang, University of Missouri- Kansas City, Associate Professor
- ・ ベトナム建設廃棄物の適正管理と建廃リサイクル資材を活用した環境浄化およびインフラ整備技術の開発 (JST-JICA SATREPS)
期 間：2017 年－2022 年
協力機関：NUCE
- ・ チッタゴン工科大学とのジョイントセッション（さくらサイエンスプログラム オンライン交流プログラム）
日付：2022 年 3 月 15 日

3-4 主な連携研究機関

- ・北海道立総合研究機構
- ・埼玉県 県土整備部, 災害対策課
- ・さいたま市 都市局・建設局
- ・首都高速道路株式会社
- ・東日本高速道路株式会社 関東支社
- ・公益財団法人鉄道総合技術研究所
- ・国立研究開発法人防災科学技術研究所
- ・国立研究開発法人情報通信研究機構
- ・ものづくり大学